

# 平成28年度 事業報告書 決算書



平成28年度大町市社会福祉大会  
(1/29 サン・アルプス大町)



社会福祉法人 大町市社会福祉協議会



# 平成28年度 事業報告書



第3次大町市地域福祉活動計画策定のための「井戸端会議」  
(11/8 社公民館)

社会福祉法人 大町市社会福祉協議会

# 目次

■ 主な会議・行事等 .....(P1)

■ 寄附採納 .....(P3)

■ 主要事業の実績

## I 地域福祉推進基盤の強化

---

1. 法人運営基盤の強化 .....(P5)

- (1) 法人運営事業
- (2) 資産管理・退職共済・処遇改善事業

2. 地域福祉活動の財源確保 .....(P10)

- (1) 会員組織強化事業
- (2) 赤い羽根共同募金運動推進事業

3. 災害時支援体制の強化 .....(P12)

4. 生活課題の調査・研究、第3次地域福祉活動計画の策定 .....(P13)

5. 公益事業の推進 .....(P14)

## II お互いさまのまちづくり

---

1. 地域における支え合い活動の推進 ..(P17)

- (1) ご近所支え合い事業
- (2) 小地域福祉ネットワーク事業
- (3) 地区社協連携強化事業
- (4) 市民ふれあい広場の開催

2. ボランティア活動の推進 .....(P22)

- (1) ボランティアセンター運営事業
- (2) ボランティア活動相互連携事業
- (3) 災害ボランティア支援事業

## III 安心して暮らせるまちづくり

---

1. 生活支援活動の推進 .....(P25)

- (1) 心配ごと相談事業
- (2) 福祉輸送サービス事業
- (3) 日常生活自立支援事業
- (4) 成年後見支援センター事業
- (5) 豊かな暮らし応援事業

2. 高齢者福祉活動の推進 .....(P31)

- (1) 生きがいデイサービス事業
- (2) 生活支援ホームヘルプサービス事業

3. 介護保険事業の推進 .....(P32)

- (1) 居宅介護支援事業
- (2) 訪問介護事業
- (3) 訪問入浴介護事業
- (4) 通所介護事業
  - ① デイサービスひなたぼっこ
  - ② デイサービスこすもす
  - ③ デイサービスみさか
  - ④ デイサービスみあさ

4. 障がい者福祉の推進 .....(P37)

- (1) 障がい理解促進事業
- (2) 障がい者余暇活動支援事業
- (3) 障がい者就労支援事業
- (4) 地域生活支援事業
  - ① 障害福祉サービス計画支援事業
  - ② 大北圏域障害者相談支援事業
  - ③ 発達障がいサポート・マネージャー事業
  - ④ 療育支援事業
  - ⑤ 障害者地域活動支援センター事業
  - ⑥ 移動支援サービス事業
  - ⑦ 日中一時支援事業
  - ⑧ いこいの家事業

(5) 障がい福祉サービス事業

- ① 障がい者居宅介護事業
- ② 多機能型障害福祉サービス事業

5. 経済的支援活動の推進 .....(P46)

- (1) 生活困窮者等自立支援事業
- (2) 資金貸付事業
- (3) 災害見舞金等支給事業

## IV 受け継がれるまちづくり

---

1. 福祉における福祉意識の啓発 ..(P49)

- (1) 福祉情報発信事業
- (2) 地域福祉意識啓発事業

2. 地域の担い手育成 .....(P51)

- (1) 福祉教育推進事業
- (2) 地域福祉活動担い手育成事業

3. 地域福祉活動団体の育成 .....(P53)

- (1) 小地域福祉ネットワーク活動推進事業
- (2) 地域福祉活動団体育成事業

## ■ 主な会議・行事等

期 日	内 容	会 場
4月 1日	辞令・通知書交付式	総合福祉センター
8日	北アルプス成年後見支援センター開所式	//
27日	社協役職員歓送迎会開催	明日香荘
5月24日	生活支援コーディネーターフォローアップ研修出席	フレンド・プラザ大町
27日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会総会・研修会開催	平公民館
30日	第1回理事会・第1回評議員会開催	総合福祉センター
6月10日	成年後見制度普及啓発講座①開催	フレンド・プラザ大町
18日	大北地区障がい者運動会出席	市総合体育館
30日	大北ブロック市町村社協事務局長会議出席	池田町
7月 4日	「七夕コンサート」開催	総合福祉センター
15日	成年後見制度普及啓発講座②開催	白馬村
19日	市民生委員推薦会出席	市役所
28日	小地域福祉ネットワーク研修会開催	常盤公民館
29日	第1回総合企画部会開催	総合福祉センター
8月 1日	総合福祉センター災害時避難訓練実施	//
4日	市長と三役との懇談会開催	//
6日	大町やまびこまつり参加	市内本通り
12日	市民生委員推薦会出席	市役所
17日	成年後見制度普及啓発講座③開催	池田町
19日	総合福祉センター運営懇話会開催	総合福祉センター
27日	市地震総合防災訓練／職員参集訓練・危機対応研修実施	//
31日	第1回地域福祉活動計画策定委員会開催	//
//	訪問入浴車贈呈式	//
9月 9日	第2回総合企画部会開催	//
14日	長野県社会福祉大会出席	長野市
15日	あいサポート企業・団体認定証交付式出席	県庁
20日	市民生委員推薦会出席	市役所
23日	第2回理事会、第2回評議員会	総合福祉センター
26日	ボランティアセンター運営委員会開催	//
30日	障がい児・者希望の旅実施	浅間山火山博物館



北アルプス成年後見支援センター開所式（4/8 総合福祉センター）

期 日	内 容	会 場
10月 1日	北アルプスフェア2016・昔の遊びコーナー出展・赤い羽根共同募金街頭募金実施 ～2日(日)	国営アルプスあづみの公園大町・松川地区
6日	大原すこやか会総合福祉センター視察受入	総合福祉センター
8日	市民ふれあい広場2016開催	市文化会館前広場
19日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会理事会開催	総合福祉センター
21日	長野県更生保護大会出席	市文化会館
//	仁科台中学校ボランティア活動受入	総合福祉センター
27日	第2回地域福祉活動計画策定委員会開催	//
11月 1日	平成29年度補助・受託事業ヒアリング実施	//
3日	大北ブロックボランティア地域活動フォーラム参加	池田町
5日	赤い羽根共同募金街頭募金実施	市内3か所
8日	地区別井戸端会議開催(社地区)	社公民館
11日	地区別井戸端会議開催(常盤地区)	常盤公民館
12日	常盤地区災害時地域連携研修会共催	//
15日	雪かき支援員活動説明会開催	総合福祉センター
//	地区別井戸端会議開催(八坂地区)	八坂支所
17日	平地区カラオケサロン共催	平公民館
//	民生委員推薦会出席	市役所
18日	地区別井戸端会議開催(美麻地区)	美麻総合福祉センター
21日	あいサポート職員研修会①開催	総合福祉センター
22日	地区別井戸端会議開催(大町地区)	//
24日	地区別井戸端会議開催(平地区)	平公民館
26日	大北圏域介護保険事業者連絡協議会公開講座開催	アプロード
29日	障害福祉サービス事業者実地指導	総合福祉センター
12月 1日	あいサポート職員研修会②開催	//
3日	赤い羽根共同募金街頭募金実施	市内3か所
16日	第3回理事会・第3回評議員会	総合福祉センター
1月13日	新年度各事業所予算ヒアリング実施	//
24日	第4回理事会開催	//
29日	大町市社会福祉大会開催	サン・アルプス大町
2月 6日	第3回地域福祉活動計画策定委員会開催	総合福祉センター
14日	共同募金委員会「公募を考えるワーキンググループ」開催	//
21日	地区社会福祉協議会連絡会開催	//
24日	福祉有償運送運営協議会出席	市役所
28日	第5回理事会開催	総合福祉センター
3月 2日	第4回地域福祉活動計画策定委員会開催	//
7日	評議員選任・解任委員会開催	総合福祉センター
8日	ピアサポート事業「落語を楽しもう」開催	//
9日	ボランティアセンター運営委員会開催	//
13日	成年後見支援センター運営委員会、小委員会開催	//
14日	支え合い体制づくり協議会準備会	市役所
23日	長野県新5か年計画策定懇談会出席	大町合同庁舎
24日	第6回理事会・第4回評議員会	総合福祉センター



## ■ 寄附採納

### ① 寄附者一覧（寄附金）

寄せられた寄附金は、ボランティア基金に積立て、ボランティアセンター運営委員会で用途を協議のうえ取崩し、寄附者の意向を尊重しながら有効活用を図っています。

期 日	金額（円）	寄附者（敬称略）
4月19日	8,637	大町母子寡婦福祉会
21日	6,500,000	横澤厚信 ※ 訪問入浴車整備資金
5月 3日	54,000	大町ソフトボール連盟
6月15日	167	匿名
16日	5,189	よってって
7月11日	10,000	大町岳陽高校縁日販売係
20日	3,000	老松
21日	98,000	昭和電工(株)大町事業所
8月 1日	30,000	大町市元市議会議員の会
8日	3,100	俵屋
8日	870	喫茶茶々
17日	10,000	匿名
9月 2日	3,329	匿名
28日	26,800	ろうきん大町支店運営委員会
10月20日	2,400	大北建設労働組合
28日	50,000	大糸タイムス友の会
28日	10,000	大町市陶芸の家
11月 8日	11,955	相生町長生会
16日	7,000	88ボランティア
21日	21,133	大町市女性団体連絡協議会
25日	10,000	大町市十日会
12月14日	3,000	老松
22日	100,000	大町市老人クラブ連合会
1月16日	30,000	大町市青年会議所シニアクラブ
16日	23,900	新しい編み物サークル
30日	800	新しい編み物サークル
3月 1日	100,000	昭和電工(株)大町事業所
28日	11,562	大町市食生活改善推進協議会
28日	3,500	匿名
29日	750,147	河合まこと会
合 計	7,888,489	（寄附物品141,072円相当、合計8,029,561円）



大町母子寡婦福祉会様より（4/19）



大町市元市議会議員の会様より（8/1）

## ② 寄附者一覧（物品）

寄附物品は本会の事業で活用したほか、食品や消耗品は管内の福祉施設に配布しました。

期 日	物 品（数量等）	寄附者（敬称略）
4月20日	座布団12枚	匿名
6月15日	車いす2台、シルバーカー2台	八坂地区社会福祉協議会
6月18日	トイレトーパー2袋	渡邊卓也
6月23日	ティッシュ5箱、サランラップ1箱	渡邊卓也
6月26日	日用品多数	神栄町女性部
9月29日	リハビリパンツ、尿とりパット5箱	島原敏子
10月3日	アクリルタワシ53個	中村仲子
11月15日	子ども用遊具	匿名
12月1日	りんご20箱	降旗章
12月7日	カレンダー19本	信光実業(株)大町支店
12月8日	ファンヒーター2台	日本禁煙友愛会大町支部
12月8日	割りばし、金属ごみ袋	渡邊卓也
12月22日	手作りねこ10枚	匿名
12月26日	門松1対	北澤学
3月27日	パネルヒーター1台	匿名
3月28日	タオル、綿製品多数	大町商工会議所女性会



訪問入浴車贈呈式（8/31 総合福祉センター）

だいじょうぶ わたしがあなたの 手つだいを

（大町西小学校3年 伊藤瑞希さん）

「ありがとう」の一言で 広がるつながる 笑顔の輪

（大町西小学校6年 坂井亜優さん）

平成28年度 福祉啓発標語 最優秀作品



## ■ 主要事業の実績

### I 地域福祉推進基盤の強化

地域で活躍する関係者の参加と協働の下、法人運営基盤の強化、地域福祉活動の財源確保、災害時支援体制の強化、生活課題の調査・研究、公益事業の推進に取り組み、地域福祉推進基盤の強化に努めました。

#### 1. 法人運営基盤の強化

地域福祉を推進する中核組織として、安定した法人運営に努めるとともに、各積立金を活用し、福祉人材の確保、計画的な設備整備、地域における生活支援活動の活性化等に努めました。

##### (1) 法人運営事業

社会福祉法人制度改革に適切に対応しながら、経営管理・内部統制・苦情解決機能の強化に取り組みました。

項 目	実施結果・内容
社会福祉法人制度改革への対応	○ 総合企画部会を2回開催し、社会福祉法改正対応について協議 ◆ 第1回：7月29日（金）、第2回：9月9日（金） ○ 1月に定款を変更し、評議員選任・解任委員会を設置
地域社会の情勢に応じた会議の開催	○ 毎月第2火曜日を基本に三役会を開催 ○ 毎月第4火曜日を基本に所属長会議を開催 ○ 理事会を6回、評議員会を4回開催（詳細別記）
経営管理体制の強化	○ 毎月の所属長会議内で経営戦略会議を開催し、経営状況を把握 ○ 経費節減と収益確保（事業活動収支前年比6,486千円増）
内部統制機能の充実	○ 定期監査を実施（詳細別記） ○ 毎月の所属長会議内で安全衛生委員会を開催（詳細別記） ○ 事業報告・決算書、事業計画・予算書をホームページで公開 ○ 個人情報・特定個人情報保護規程に基づき、情報管理を徹底
苦情解決機能の充実	○ 各事業所に苦情受付担当者を設置し、第三者委員を設置 ○ 苦情を宝物として拝聴・記録し、業務改善に反映
働きやすい魅力的な労働環境の整備	○ 非正規職員を対象に勤続手当と処遇改善手当を支給（詳細別記） ○ 仕事と家庭の両立に向けた次世代育成支援行動計画を策定（概要別記）
大北地域内の連携強化	○ 大北ブロック社協事務局長会議を開催 6月30日（木） ○ 大北ブロック社協職員研修に参加 7月2日（土）

##### ● 理事会の開催状況

回数	期 日	内 容	
第1回	5月30日	議案	第1号 欠員に伴う評議員の選任について 第2号 平成27年度事業報告の認定について 第3号 平成27年度決算の認定について 第4号 平成28年度第1次補正予算について
第2回	9月23日	議案	第5号 平成28年度第2次補正予算について
		報告	社会福祉法人制度改革について 第3次地域福祉活動計画について
第3回	12月16日	報告	平成28年度第2四半期運営状況について 平成28年度中間決算監査について

		議案	第6号 定款の全部変更について 第7号 評議員選任・解任委員会運営規程の制定について 第8号 理事及び監事の選任規程の廃止について 第9号 評議員選任規程の廃止について 第10号 評議員及び役員選任規程の制定について 第11号 役員報酬規程の全部改正について 第12号 育児・介護休業に関する規則の全部改正について
		協議	第1号 平成28年度社会福祉功労者表彰の選考について
第4回	1月24日	議案	第13号 副会長の選任について 第14号 協議員選任・解任委員の選任について
		協議	第2号 評議員候補者の推薦依頼先について 第3号 平成28年度社会福祉功労者の選考（追加）について
第5回	2月28日	議案	第15号 評議員候補者の推薦について
第6回	3月24日	議案	第16号 会員規程の一部改正について 第17号 部会規程の一部改正について 第18号 経理規程の一部改正について 第19号 第3次地域福祉活動計画について 第20号 平成28年度第3次補正予算について 第21号 平成29年度事業計画について 第22号 平成29年度予算について
		報告	評議員選任・解任委員会の結果について 次期役員の選任について

● 評議員会の開催状況

回数	期 日	内 容		
第1回	5月30日	報告	第1号	理事の選任について
		議案	第1号	平成27年度事業報告の認定について
			第2号	平成27年度決算の認定について
			第3号	平成28年度第1次補正予算について
第2回	9月23日	議案	第4号	平成28年度第2次補正予算について
		報告		社会福祉法人制度改革について 第3次地域福祉活動計画について
第3回	12月16日	報告		平成28年度第2四半期運営状況について 平成28年度中間決算監査について
		議案	第5号 第6号 第7号 第8号 第9号 第10号	定款の全部変更について 理事及び監事の選任規程の廃止について 評議員選任規程の廃止について 評議員及び役員選任規程の制定について 役員報酬規程の全部改正について 育児・介護休業に関する規則の全部改正について
第4回	3月24日	議案	第11号 第12号 第13号 第14号 第15号 第16号 第17号 第18号	会員規程の一部改正について 部会規程の一部改正について 経理規程の一部改正について 第3次地域福祉活動計画について 平成28年度第3次補正予算について 平成29年度事業計画について 平成29年度予算について 役員の選任について
		報告		評議員選任・解任委員会の結果について

● 定期監査の実施状況

期 日	指摘事項等	改善事項等
平成27年度 決算監査 5月20日	通所こすもすの利用者の開拓を	積極的な受入れをPR
	職員の専門性を高めること	職員研修を充実
	正規職員の採用等職員体制の充実を	採用計画の策定について検討予定
	経費節減できている。LED照明等、多くの節減提案について比較検討を	設備整備計画に照明のLED化や電話設備の光回線化を計上
平成28年度 中間監査 10月31日	新卒有資格者の採用について検討を	採用計画の策定について検討予定
	過年度未収金の欠損処分の検討を	債務者の現況調査を実施
	団体事務局会計の残高の用途協議を	当該団体役員と協議予定
	他事業者の統廃合等の動向に注視を	随時情報を収集し、共有
	障がい者雇用拡大の検討を	採用計画の策定について検討予定
	ボランティアの的確なマッチングを	きめ細やかなコーディネートを実施
	有償ボランティアは大いに推進を	各種団体やメディアで広報

● 安全衛生委員会の開催状況

期 日	内 容
4月26日	H28安全衛生管理体制、職員定期健康診断、自衛消防隊編成
5月24日	産業医の職場巡視
6月10日（総会）	H27事業報告、H28事業計画
6月28日	全国安全週間
7月27日	夏の交通安全運動、安全運転管理者講習報告、腰痛予防講習
8月23日	交通事故報告
9月27日	秋の全国交通安全運動、ストレスチェックの実施要領
10月25日	ストレスチェックの実施
11月22日	年末の交通安全運動、冬季の転倒災害防止対策
12月20日	年末年始無災害運動、ストレスチェック結果通知、転倒危険箇所確認
1月24日	交通事故の発生状況、産業医の職場巡視
3月1日	事業所における治療と職業生活の両立
3月21日	春の全国交通安全運動、私有車両借上契約更新

● 次世代育成支援行動計画（第3回）の概要

計画期間	平成 29～30 年度（2カ年）
目 標	目標① 年次有給休暇取得日数を平均 0.5 日増加（職員ごとの取得率の評価・分析） 目標② 所定外労働を月平均 3 時間未満に（ノー残業デ이의励行、業務の効率化） 目標③ 職員相互が理解し合い、明るく働きやすい職場環境に（交流事業の実施ほか）

【評価と展望】

- 社会福祉法人制度改革への対応では、県下 19 市の対応状況調査や説明会等で情報収集し、総合企画部会の検討を経て、定款変更や諸規程の制定等、適切に対応できた。
- 引き続き、定期監査や安全衛生委員会等により経営管理・内部統制機能を強化していく。

## (2) 資産管理・退職共済・処遇改善事業

各積立金を有効活用し、福祉人材の確保、計画的な設備整備、地域福祉・生活支援活動の財源確保に努めました。

項 目	実施結果・内容
福祉人材の確保 (人件費等積立金取崩: 13,840千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 役職員研修の実施(詳細別記) …充当額 141千円</li> <li>○ 役職員福利厚生事業の実施(内訳別記) …充当額2,640千円</li> <li>○ 非正規職員の処遇改善補填(詳細別記) …充当額2,565千円</li> <li>○ 正規職員の退職共済掛金補填 …充当額3,130千円</li> <li>○ 介護保険・障害福祉サービス事業人件費補填 …充当額5,364千円</li> </ul>
計画的な設備整備 (施設整備等積立金取崩: 4,438千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 車輜1台取得(多機能型障害福祉) …充当額 845千円</li> <li>○ 訪問入浴介護事業所への寄附金6,500千円を財源に入浴車を整備</li> <li>○ 車輜7台(デイこすもす1台追加)、複合機2台をリース …充当額2,394千円</li> <li>○ 人事管理・給与計算システム5年保守契約 …充当額 384千円</li> <li>○ 車輜・備品の故障・破損に伴う修繕を随時実施 …充当額 815千円</li> </ul>
地域福祉・生活支援活動の財源確保 (地域福祉活動費等積立金取崩: 7,541千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ふれあい福祉センター運営事業財源不足補填 …充当額2,302千円</li> <li>○ ボランティアセンター運営事業財源不足補填 …充当額4,053千円</li> <li>○ 日常生活自立支援事業財源不足補填 …充当額 333千円</li> <li>○ 資金貸付事業財源不足補填 …充当額 667千円</li> <li>○ 成年後見支援センター事業財源不足補填 …充当額 186千円</li> </ul>

### ● 役職員研修の実施状況

期 日	内 容	会 場
5月2日	有償ボランティア先進地視察(地域福祉2人)	諏訪・岡谷市社協
5月26・27・28日	大町市民生児童委員協議会視察研修(総務企画1人)	兵庫県
6月16・17日、7月6日、8月4・5日	障害者相談支援従事者初任者研修(スクラム・ネット1人)	浅間温泉文化センター キッセイ文化ホール
6月23・24日	甲種防火管理者新規講習(八坂センター1人)	フレンド・プラザ大町
7月1日	信州くらしの支え合いネットワーク(地域福祉1人)	塩尻総合文化センター
7月8日	生活支援サービス体制づくりセミナー(地域福祉1人)	塩尻市文化会館
7月14・15日	関東ブロック社協職員合同研究協議会(地域福祉1人)	新潟県湯沢町
7月22日	社会福祉協議会会計実務者研修(総務企画2人)	県社会福祉総合センター
7月26日	安全運転管理者法定講習(総務企画2人、地域福祉1人)	サン・アルプス大町
7月28日	介護技術向上研修「相澤病院出前講座」(訪問介護)※	総合福祉センター
9月14日	長野県社会福祉大会(役員・総務企画20人)	長野市芸術館
8月31日	介護技術向上研修(訪問介護・デイこすもす)※	//
9月29・30日	調理技術向上研修(訪問介護)※	中央保健センター
10月13・14日	市町村社協事務局長会議(事務局長)	ホテル木曽路
11月16日	認知症ケア・初級研修(デイこすもす1人)	篠ノ井市民会館
//	権利擁護部会「矯正施設視察」(多機能型1人)	長野刑務所
11月29日	社会福祉協議会トップセミナー(正副会長・常務理事)	ホテルブエナビスタ
12月14・15日、1月11・31日、2月1・21・22日	サービス管理責任者研修(介護・就労)(多機能型1人)	浅間温泉文化センター 長野市生涯学習センター
1月31日	介護技術向上研修「リフレッシュ運動」(訪問介護)※	総合福祉センター
//	社会福祉協議会法人運営・経理研修(総務企画1人)	県総合教育センター
2月15日	介護福祉士会研修会「日常生活支援総合事業を学ぶ」(総務企画1人、居宅2人、訪問介護4人、デイこすもす2人)	大町公民館分室

※ 内部研修

● 役職員福利厚生事業費の内訳

(単位:千円)

産業医	健康診断	ストレスチェック	予防接種	制服貸与	共済会補助	慶弔見舞金
300	960	94	328	473	282	204

● 定期健康診断等の実施状況

実施方法	個別健診	集団健診	ストレスチェック
対象者	35歳以上で健康保険に加入している職員	週労働時間20H以上で、個別健診の対象とならない職員	所定労働時間が週平均20時間以上の職員
期 日	8月～2月の指定予約日	8/7(金)	11月
実施場所	市立大町総合病院	総合福祉センター	市立大町総合病院
受診者数	87人	33人	128人

● 産業医の職場巡視の実績

事業場	総合福祉センター	八坂総合福祉センター	美麻総合福祉センター	デｲｯﾋﾞｽｾﾝﾀｰ ひなたぼっこ
期 日	10/11、2/7	8/9、12/6	9/20、1/10	7/12、11/8

● 勤続手当・処遇改善手当の支給実績

名 称	勤続手当	処遇改善手当
算定方法	4月1日現在の勤続年数に応じた月額 (1年:250円、2年:500円、3年:1,000円、以後1年につき1,000円ずつ加算、最高8,000円)	介護報酬及び自立支援給付費の半期ごとの処遇改善加算額を、対象職員の労働時間に応じて配分 介護職員:6月145円・12月141円/時 その他職員:6月37円・12月36円/時
支給対象者	勤続1年以上の嘱託・臨時・非常勤職員	嘱託・臨時・非常勤・登録職員
支給時期	毎 月	6月・12月
支給実績	3,015,300円	15,793,784円

【評価と展望】

- 福祉人材の確保については、生産年齢人口の減少と介護需要の増大に伴う人手不足が見込まれることから、他の事業者とも連携しながら対策を講じていく。
- 処遇改善事業と退職共済事業の会計区分を設定し、介護・障害福祉事業から所属職員分を繰り入れることで、各事業の実質収支を把握することができた。
- 各事業の収支改善により積立金の取崩額を抑制し、一定の積立額を確保することができたが、今後も制度改定による収益減少が見込まれることから、収入の確保に努めるとともに、経費節減策を講じていく。

奉仕の芽 咲かせる広める 地域から

(大町仁科台中学校1年 前田愛莉さん)

たった一言声かけを 求める人がきつという

(大町岳陽高校3年 中島朱里さん)

平成28年度 福祉啓発標語 最優秀作品



## 2. 地域福祉活動の財源確保

地域内の生活課題に取り組む住民主体の活動を支援するため、必要となる財源の確保に取り組みました。社協会員組織の強化と、赤い羽根共同募金運動を推進しました。

### (1) 会員組織強化事業

社協会費の使途を分かりやすく広報し、会員組織の強化を図りました。会費は、ボランティア団体や地区社協・小地域福祉ネットワークの活動助成など、地域福祉の推進に活用しました。

項 目	実施結果・内容
会員の確保と加入促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一般会員（1世帯当たり年額600円）：7,500世帯を目標に、4～5月、自治会長等に納入依頼文・チラシを送付し、協力を依頼</li> <li>○ 特別会員（1人当たり年額3,000円）：740人を目標に、7～8月、前年度会員等に納入依頼文・チラシを送付し、民生委員に取りまとめの協力を依頼</li> <li>○ 「社協おおまち」に記事を掲載、4月号に一般会員・8月号に特別会員募集について掲載、12月号には特別会員名簿を掲載</li> </ul>

● 年度別会員別会費集計表（過去5カ年） （単位：円）

年度	一般会員（一般会費）			特別会員（特別会費）		
	世帯数	金 額	前年比	人 数	金 額	前年比
H24	7,859	4,715,400	98.4%	771	2,313,000	102.3%
H25	7,744	4,646,400	98.5%	766	2,298,000	99.4%
H26	7,673	4,603,800	99.1%	771	2,313,000	100.7%
H27	7,602	4,561,200	99.1%	759	2,277,000	98.4%
H28	7,535	4,521,000	99.1%	732	2,196,000	96.4%

#### 【評価と展望】

- 一般会費は、市役所の総合納入窓口での納入が3割を超え、年々設置が定着し「1カ所での納入できる総合納入窓口はありがたい」との声が聞かれた。
- 一般会費・特別会費ともに、前年度に対しては若干下回る結果となった。引き続き、地域に根差した社協事業への理解と周知を図り会員確保に努める。
- 税額控除対象法人の認可を受け、寄付金控除が可能となったことを周知し、特別会員増加に取り組んだ。

### (2) 赤い羽根共同募金運動推進事業

共同募金は、都道府県を単位とする共同募金会が実施主体となり、各市町村はその支部組織として活動を行っており、当市も含め大半の市町村では、社協で事務局を担っています。

長野県共同募金委員会では、「地域をつくる市民を応援する共同募金への転換」に向けた改革を進めており、大町市では新しい組織体制を発足し、各種募金活動を展開しながら、新たな公募配分事業の立ち上げを検討しました。

項 目	実施結果・内容
新たな公募配分事業の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公募を考えるワーキンググループを設置 委員6名 ◆ ワーキンググループ（12月、2月開催）</li> <li>○ 運営委員会にて、公募配分事業実施要項を制定</li> </ul>
広報紙等による広報啓発、配分事業の周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボランティアニュース、社協報にて活動内容を記載</li> <li>○ 戸別募金の依頼に、配分金の活用先や活動内容を記載した依頼文を配布し、自治会等が活用できる配分事業を周知</li> </ul>

募金目標額を達成するための運動	○ 妖怪ウォッチ資材を用いて、北アルプスフェア、市民ふれあい広場、街頭募金で活用
街頭募金運動の実施	○ ザ・ビッグ、カインズホーム、フレスポ大町（デリシア前）の3か所で、11・12月の2回実施
大口の金協力事業所名簿の公表	○ 社協報186号に大口寄付者名簿と募金のお礼を掲載

● 募金実績の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
募金目標額（円）	9,905,000	9,707,000	9,688,000	9,656,000	9,543,000
募金実績額（円）	9,756,439	9,799,038	9,690,562	9,520,011	9,134,658

● 平成 28 年度共同募金配分金の内訳

（単位：円）

配分先		高齢者 福祉活動	障害児・者 福祉活動	児童・青少年 福祉活動	住民全般 福祉活動	合 計
地区社協分	大町地区	610,342	50,000	260,000	570,000	1,490,342
	平地区	160,000	40,000	226,000	567,389	993,389
	常盤地区	346,853	30,000	540,000	450,000	1,366,853
	社地区	293,741	0	60,000	150,000	503,741
	八坂地区	220,000	10,000	40,000	74,000	344,000
	美麻地区	50,000	10,000	45,000	61,313	166,313
	計	1,680,936	140,000	1,171,000	1,872,702	4,864,638
市社協分		209,713	317,876	0	2,451,784	2,979,373
合 計		1,890,649	457,876	1,171,000	4,324,486	7,844,011

● 平成 28 年度市社協配分金事業の内訳

（単位：円）

事 業 名	配分金額	事 業 名	配分金額
福祉団体助成事業	285,000	希望の旅事業	179,882
市民ふれあい広場開催事業	500,000	福祉輸送サービス事業	347,707
社協報発行事業	1,192,320	心配ごと相談事業	79,184
ボランティアニュース発行事業	395,280	災害見舞金等給付事業	0
合 計			2,979,373

【評価と展望】

- 組織改変により名称を大町市共同募金委員会と改め、運営委員会と審査委員会それぞれの活動を始めた。
- 公募を考えるワーキンググループを立ち上げ、広く共同募金の助成金を利用できる仕組みづくりを検討し、来年度より施行する。
- 募金実績は年々下がってきている。赤い羽根共同募金の仕組みや配分事業などを知っていただく機会を増やす広報活動に重点を置き、募金活動を展開していく。



### 3. 災害時支援体制の強化

被災地支援のほか、職員を対象とした災害対応訓練や地域住民を対象とした災害時連携研修会を行い、災害時支援体制の強化を図りました。

項 目	実施結果・内容
被災地支援活動	<p>○ 「新潟県糸魚川市大規模火災」</p> <p>◆ 義援金の募集（募集期間：H29.6月末） 行政と連携し、市社協が管理する市内3施設に義援金箱を設置 ホームページ等で周知</p> <p>◆ 情報収集 市民からの救援物資や災害ボランティアセンターについての問い合わせに対し、長野県社協、被災地社協等より情報収集して対応</p>
災害時連携研修会	<p>開催日 11月12日（土） 会 場 常盤公民館 講堂 対象者 常盤地区住民/常盤地区自治会/常盤地区自主防災会/日赤常盤分団/市消防団/常盤地区小地域福祉ネットワーク/常盤地区民生児童委員協議会 内 容 講演及びグループワーク テーマ：「災害発生時の地域の動き」 講 師：中橋 徹也 氏 NPO法人 地域交流センター副代表理事 参加者数 約70名</p>
職員研修	<p>開催日 8月28日（土）※大町市地震総合防災訓練に合わせ実施 内 容 ◆ 参集訓練 午前7：15 防災メール及び防災無線の発報に合わせ、職員初動マニュアルに基づいて参集 ◆ 職員危機対応研修会</p>

#### ● 義援金の募集・送金状況

送金日	金 額（円）	義援金の内容
9月29日	1,605	平成28年台風大雨等災害義援金
10月13日	326,129	熊本地震災害義援金
3月31日	1,207	岩手県台風10号大雨等災害義援金
3月31日	3,268	鳥取県中部地震災害義援金
合 計	332,209	

#### 【評価と展望】

- 実際の災害発生を想定した、より具体的な訓練・研修会を地域住民や関係機関を交えて開催し、防災意識と対応力を高めることができた。
- 連携研修会については、災害関係団体が一同に集まり、それぞれの活動について話し合う機会がとれたことは大変有意義であった。今後、他の地区でも随時開催し、「災害」というキーワードで、お互いに連携するネットワーク形成を目指す。
- 職員研修は継続して行うことが重要であり、今後毎年開催していく。災害時、社協は利用者のケアに加え、災害ボランティアセンター並びに福祉避難所の運営を行う。特に福祉避難所については、設置依頼元の行政と情報共有しながら、職員への周知を図っていく。

#### 4. 生活課題の調査・研究、第3次大町市地域福祉活動計画の策定

昨今の社会情勢の変化や大町市の福祉の現状を調査・研究し、平成29年度から5カ年の第3次大町市地域福祉活動計画を策定しました。

項 目	実施結果・内容
第3次地域福祉活動計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 策定委員会（外部委員15人）、作業チーム（職員10人）を設置</li> <li>○ 作業チームによる第2次計画の内部評価を実施（7～8月）</li> <li>○ 大町市と合同で「地域福祉に関する住民意識調査」を実施（8月）</li> <li>○ 大町市・各地区社協と共催で「地区別井戸端会議」を開催（11月）</li> <li>○ 計画案をホームページに公開し、パブリックコメントを募集（2月）</li> <li>○ 作業チームにより、計画の素案を作成（5回、詳細別記）</li> <li>○ 策定委員会により、計画案等について審議（4回、詳細別記）</li> </ul>

##### ● 作業チームの検討内容

期 日	内 容
8月1日	第1回検討会（スケジュールの確認、現行計画の評価、住民意識調査）
8月29日	第2回検討会（評価結果、住民意識調査の結果）
10月21日	第3回検討会（住民意識調査結果分析、基本計画の素案、井戸端会議実施方法）
11月1日	第4回検討会（井戸端会議実施方法）
1月26日	第5回検討会（実施計画案の検討）

##### ● 策定委員会の開催状況

期 日	内 容
8月31日	正副委員長選出、概要説明、諮問、現行計画評価報告、住民意識調査実施報告
10月27日	住民意識調査結果報告、施策の体系案提示、井戸端会議開催案内
2月6日	井戸端会議結果報告、計画素案提示、パブリックコメント募集案内
3月2日	パブリックコメント募集結果報告、計画最終案提示、答申

##### 【評価と展望】

- 第2次計画の評価や住民意識調査結果、井戸端会議の意見を適切に反映した計画が策定できた。今後は毎年度の事業計画に反映するとともに、地域住民や福祉サービス事業者への普及啓発に努めながら、各事業計画を着実に実行していく。



第3次大町市地域福祉活動計画策定委員の皆さん（3/2 大町市総合福祉センター）

## 5. 公益事業の推進（指定管理施設の管理運営等）

指定管理施設の経営方針「誰もが安心して利用できる地域に根差した良質な施設経営」に従い、総合福祉センター3施設を管理・運営しました。

項 目	実施内容・結果
良質な施設サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境美化・緑化活動を実施（ごみ拾い、草取り、花植え、除雪等） <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 5～10月の第1金曜日8:00～8:30のほか、随時実施</li> </ul> </li> <li>○ 利用者へのあいさつ、親切的な声掛けを励行</li> <li>○ 施設の利用方法等を周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ホームページ、広報紙、CATV、有線放送、新聞記事掲載ほか</li> </ul> </li> <li>○ 3施設とも館内を禁煙とし、屋外に喫煙所を設置して分煙を徹底</li> </ul>
施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 設備の定期点検・保守点検を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 灯油地下タンク気密試験（八坂・美麻各1回）</li> <li>◆ 防災・防災設備点検（3施設各2回）</li> <li>◆ 電気設備点検（大町・美麻各6回 ※八坂は支所で実施）</li> <li>◆ 給排水・空調設備点検（3施設各2回）</li> <li>◆ 自動ドア点検（3施設各3回）</li> <li>◆ エレベータ点検（大町4回 ※遠隔点検は毎月）</li> </ul> </li> <li>○ 日常清掃（通年）、特殊清掃（大町2回、八坂・美麻各1回）を実施</li> <li>○ 建物・設備の破損・故障に迅速に対応し、計画的に整備（内訳別記）</li> <li>○ 大町市に次年度以降3カ年の整備要望書を提出</li> <li>○ 使用量の節減・単価下落により電気料・燃料費を削減（詳細別記）</li> </ul>
安心・安全かつ平等な施設運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 避難訓練・防災訓練を実施（3施設各2回）</li> <li>○ 防犯・トラブル防止のための掲示・巡回を実施</li> <li>○ 公衆浴場利用者の傷病等に適切に対応（3件発生、内2件救急搬送）</li> </ul>
利用者ニーズの把握とサービスへの反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大町市総合福祉センター運営懇話会を開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 前年度利用状況・事故発生状況・施設整備状況の報告</li> <li>◆ 施設の利用促進について ほか</li> </ul> </li> <li>○ 利用者の声（意見箱）や管理日誌で意見・要望を把握し、随時対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 利用者間のトラブル防止に関する掲示（6月）</li> <li>◆ 大会議室イス、講演台購入（8月）</li> <li>◆ 公衆浴場女湯浮遊ごみ対策工事（3月） ほか</li> </ul> </li> </ul>
施設の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公衆浴場無料開放デーの設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 子どもの日（5月5日 226人）</li> <li>◆ 敬老の日前日（9月18日 175人）</li> <li>◆ 新年初営業日（1月3日 165人 ※おしるこ振る舞い実施）</li> </ul> </li> <li>○ 年末年始の公衆浴場臨時営業 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 12月29日（10:00～17:00 72人）</li> <li>◆ 12月30日（10:00～17:00 101人）</li> <li>◆ 1月3日（13:00～17:00 165人）</li> </ul> </li> </ul>
その他施設の利活用等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ エントランスホールの活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 信州ふるさと百選パネル展（6月1～15日）</li> <li>◆ いこいの家10周年記念七夕コンサート開催（7月4日） ほか</li> </ul> </li> <li>○ やまびこまつり神輿担ぎ手への施設無料開放（8月6日 41人）</li> <li>○ 山の子村キャンプ参加者への公衆浴場開放（8月7・10日 福島県からの参加児童延べ63人）</li> <li>○ 大町アルプスマラソン参加者公衆浴場割引（10月16日 267人）</li> <li>○ 美麻ふれあいまつり（8月20日 参加者180人）</li> <li>○ 美麻地域福祉センターへのなしの木児童の定期的な受入れ及び交流</li> </ul>



● 各施設の利用状況

施設名	項 目	開設日数	利用実績
大町市総合福祉センター	公衆浴場	310 日	延べ 31,306 人 (101.1 人/日)
	会議室等貸館	359 日	延べ 2,108 団体 (5.9 団体/日) 延べ 20,938 人 (58.3 人/日)
八坂総合福祉センター	デイサービス	258 日	延べ 4,320 人 (16.7 人/日)
美麻総合福祉センター	デイサービス	258 日	延べ 4,292 人 (16.6 人/日)
	会議室等貸館	245 日	延べ 50 団体 (0.2 団体/日) 延べ 1,012 人 (4.1 人/日)

● 公衆浴場利用状況の推移 (大町)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
一 般 (人)	8,943	8,822	7,102	6,849	7,180
65 歳以上 (人)	18,290	19,099	19,310	19,164	20,619
障がい者 (人)	1,905	2,210	1,844	2,199	2,266
小中学生 (人)	1,021	1,306	906	1,016	1,137
優待券等 (人)	1,873	315	140	128	104
合 計 (人)	32,032	31,752	29,302	29,356	31,306
利用料収入 (千円)	7,252	7,173	6,474	6,256	6,665

● 貸館利用状況の推移 (大町)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
利用件数 (団体)	2,260	2,268	1,988	2,042	2,108
利用人数 (人)	20,554	19,979	20,293	19,306	20,938

● 電気料・燃料費の実績

(単位：千円)

施設	電気料			燃料費		
	H28	H27	増減	H28	H27	増減
大町	5,666	6,697	▲1,031	1,412	1,511	▲99
八坂	327	287	40	75	83	▲8
美麻	1,267	1,558	▲291	213	253	▲40
合計	7,260	8,542	▲1,282	1,700	1,847	▲147

● 各施設の設備・備品等修繕実施状況

施設	破損・故障箇所	修繕内容	費用 (円)
大町	トイレ温水洗浄便座故障 (たんぽぽ・こすもす)	温水洗浄便座交換	183,600
	残留塩素計測定不良	測定用電極交換	35,316
	ひまわり棟北外壁一部塗装剥がれ	外壁塗装	49,680
	たんぽぽ室コンセント絶縁不良	電気配線交換	36,288
	公衆浴場男湯サウナタイマー故障	サウナタイマー交換	64,800
八坂	給湯配管漏水	自動空気抜弁交換	25,920
	玄関屋根アーチ部雪止落下	雪止金具交換	57,240
	静養室・和室床暖房故障	コントローラ交換	147,420
美麻	トイレ・シャワー室換気扇異音	換気扇交換	37,800
	給湯機器温度調整不良、浴槽水濾過機上部漏水	薬剤注入弁他交換	90,288
	診療所ブラインド破損	ブラインド交換	36,180
	避難誘導灯点灯不良	誘導灯交換	33,048
合 計			797,580

● 各施設の設備・備品等整備実績

施設	整備箇所・内容	支出科目	費用(円)
大町	大会議室イス 20 脚・収納用台車 1 台	消耗器具備品費	107,560
	大会議室講演台 1 台	//	12,420
	公衆浴場男女脱衣室長椅子各 1 台	//	42,120
	男女脱衣室ドライヤー各 1 台	//	15,120
	建物北東側屋外夜間点灯照明一式	//	45,000
	厨房スチームコンベクションオープン 1 台	//	1,410,480
	管理事務室 LED 化	//	232,243
	エントランスホール LED 化	//	370,440
	公衆浴場女湯浮遊ごみ対策	//	267,840
	ひまわり棟多目的トイレ洗面台手摺設置	//	168,480
	空調設備消耗部材等交換整備	保守料	521,100
	給湯ポンプ 5 台メカニカルシール交換整備	//	129,600
八坂	スプリンクラー設備アラーム弁交換整備	保守料	62,640
	自動ドア消耗部材交換整備	//	27,000
美麻	診療所待合室カーテン一式	消耗器具備品費	69,120
	静養室エアコン設置	//	271,404
	管理事務室 LED 化	//	199,800
	給湯循環ポンプ交換整備	保守料	140,400
合 計			4,092,767

【評価と展望】

- 電気・灯油の使用量節減と単価値下がりにより、電気料・燃料費を大幅に削減し、これらと前年度からの繰越金を財源に当初の計画を上回る設備・備品等の整備ができた。
- 各事業所に担当エリアを割り振り、夏季の緑化活動や冬季の除雪を行い、それぞれのアイデアで快適な施設環境を保つことができた。
- 公衆浴場の利用者は、利用増加策により昨年度から増加に転じ、特に 65 歳以上の利用者は過去 5 年で最高となった。また、貸館の利用人数も過去 5 年で最高となった。
- 各施設とも老朽化が進んでいる。大町市に次年度以降 3 力年の整備要望書を提出したが、再度想定される修繕等を列挙して優先順位を定め、計画的な整備を要望していく。



仁科台中学校生徒による花壇整備（5/30 大町市総合福祉センター中庭）

## Ⅱ お互いさまのまちづくり

お互いさまのまちづくりをめざして、地域の支え合い活動やボランティア活動支援と相互の連携強化を図りました。

### 1. 地域における支え合い活動の推進

地域にある生活課題の掘り起こしと助け合い活動の活性化のため、ご近所支え合い事業、小地域福祉ネットワーク事業、地区社協連携強化事業に取り組むとともに、市民ふれあい広場を開催しました。

#### (1) ご近所支え合い事業

日頃からの地域住民による支え合いが災害時への大きな備えとなることから、防災意識の向上と住民自らが課題を把握しその課題に向き合うことを目的とした、「災害時住民支え合いマップ作成」を推進しました。

項 目	実施結果・内容
集会等でのマップ推進活動	① 大町市自主防災会連絡会への参加 開催日 5月17日 会 場 サン・アルプス大町 参加者 約90名 内 容 支え合いマップ作成マニュアルに基づいた説明 ② 日赤奉仕団社分団、男女共同参画合同研修会 開催日 7月30日 会 場 社公民館 参加者 約50名 内 容 自治会毎の地図を使用した、模擬マップ作成訓練
自治会での支え合い活動推進支援	① 上ー自治会防災訓練への参加 開催日 10月2日 会 場 上ー基幹センター 参加者 約40名 内 容 作成済みの支え合いマップを活用した要援護者安否確認訓練に合わせ、隣近所の支え合いの重要性について説明 ② 八日町自治会防災研修会への参加 開催日 11月27日 会 場 八日町公民館 参加者 約20名 内 容 被災地域における地域の支え合いの状況等参考に、今後取り組むべき内容について、研修会を開催
マップ作成支援	① 宮田町自治会 支援実施日 6月11日、6月25日、7月13日 内 容 マップ作成について説明、自治会での話し合いで、地域防災に関する住民アンケートを実施、概ねマップ作成について参加協力が得られるアンケート結果となり、隣組単位でのマップ作成を開始 ② 若原町自治会 支援実施日 9月16日 内 容 自治会役員を対象としたマップ作成説明会を開催

● マップ作成自治会数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
マップ作成自治会数	14	15	19	23	23

【評価と展望】

- 昨年度から行政に要望していた「自主防災会」を対象とした研修会が実施できた。毎年役員が交代する地区が多い中で今後も継続的に研修会への出席が必要。
- 今後も地道にマップ作成推進を継続していくことが重要である。
- 支え合いマップは災害への対応手段の一つとして考えられているが、地域の状況を把握し課題を発見することが、地域福祉の推進につながりひいては、災害にも強い地域づくりとなる。この目的を更に地域に浸透させていく。

## (2) 小地域福祉ネットワーク事業

既存のネットワークを対象とした研修会を開催するとともに、各ネットワークへの訪問活動を行うことで、活動内容と課題の把握に努めました。

項 目	実施結果・内容
小地域福祉ネットワーク研修会	<p>開催日 7月28日</p> <p>会 場 常盤公民館 講堂</p> <p>参加者 44名</p> <p>内 容 事例発表 ①「地区で取り組む生活支援活動について」 大新田町ネットワーク こだま</p> <p>②「地区で取り組む雪かき支援について」 三日町 さんさん会</p> <p>③「活動再開について」 旭町 あさひ会</p> <p>基調説明 テーマ「あったらいいなから始めよう」 講師 社会保険労務士 杉山 逸人 氏</p> <p>ワーク テーマ「地域をよくするために自分たちにできること」</p>



小地域福祉ネットワーク研修会（7/28 常盤公民館）

項 目	実施結果・内容
ネットワーク勉強会（市地域包括支援センターと協働で開催）	○開催日 4月27日 ○会 場 市役所東大会議室 ○参加者 30名 ○内 容 基調講演 消費生活講座（電力自由化による消費者被害） 講師 県消費生活センター 竹淵所長 基調説明 介護保険制度改正と地域ケア会議 説明者 市地域包括支援センター 荒井所長
ネットワーク訪問活動	○ 地域ケア会議の周知と地域活動の見える化、また地域のニーズ把握を目的に、市地域包括支援センターとの協力体制により訪問活動を実施 ◆ 訪問日及び訪問先 相生町（4/5）、大原町（4/15）、高根町（5/10）、 六九町（5/16）、十日町（5/27）、相生町（9/13）、 高見町（9/29）、北原町（10/5）、宮田町（10/23）、 旭町（10/23）、十日町（11/13）、高根町（11/4）

● ネットワーク数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
ネットワーク数	42	43	46	46	46

【評価と展望】

- 介護保険制度改正に向け、ネットワークへの訪問活動を重点的に実施した。改正内容やこれからのネットワークについて話し合いをしたいと再度の訪問依頼もあり、少しずつこれからの地域福祉のあり方について考えることの必要性が浸透してきている。
- 制度改正もあり、昨年に引き続きネットワークを対象とした研修会が各所で開催されている。一部の参加者から「同じような内容を何回もどうにかならないか」との意見もあり、各機関との横の連携を深めていく必要がある。
- これからも、地域活動の基本は変わらない。新しい制度も含め現在やこれからの地域福祉を取り巻く環境等について、地域活動をされている皆さんに継続して周知していく。

### （３）地区社協連携強化事業

住民主体で地域活動を行っている市内６地区社協との連携強化に努めました。

項 目	実施結果・内容
地区社協連絡会議	○ 新たな社協事業の周知や地区社協と協働で実施したい事業について協力依頼をするとともに、今後の市社協と地区社協相互の連携体制を確認 開 催 日 平成29年2月21日 会 場 市総合福祉センター 参集範囲 6地区社協 会長並びに事務局担当者 内 容 災害時連携研修会について 有償在宅福祉サービス「もちもちサービス」について 情報交換（共同募金配分金、雪かき支援の現状 ほか）

【評価と展望】

- 介護保険制度改正により、小さい範囲での地域ニーズに基づいた支援内容の検討がより重要となる中で、地区社協活動の重要性が増してくる。その中で、市社協と地区社協相互の連携強化を図るため、今後定期的な連絡会議を開催することで意志統一ができた。
- 地区社協の単位で、地域ニーズの発掘と資源の開発等の業務を担うコーディネーターの配置が理想である。



#### (4) 市民ふれあい広場の開催

福祉、子育て、健康、生活環境など、さまざまな分野の参加団体からなる実行委員会を組織し、「市民ふれあい広場」を開催しました。模擬店やステージ発表など、盛りだくさんの催しを企画し、出会い・交流の場を提供しました。

項 目	実施結果・内容
参加団体で構成する実行委員会による企画・運営	5月19日(木) 第1回幹事会 7月13日(水) 第1回実行委員会 9月27日(火) 第2回実行委員会 10月7日(金) 会場の前日準備 10月8日(土) 市民ふれあい広場当日
社会福祉功労者表彰、模擬店等の出店、ステージ発表	○ 食べ物の振る舞いや販売、障害者施設やボランティア団体等の自主製品の販売など模擬店等が出店 ◆ 参加団体：45団体、コーナー数：56コーナー ○ 特設ステージ ◆ 開会前 おらほのラジオ体操 ◆ ふれあいステージプログラム オープニングセレモニー/共同作業所のなかまたちコンサート/大町岳陽高校吹奏楽部演奏/特別養護老人ホームカトレヤバンド演奏/おおまぴょんのおお！マーチde体操/大町のおどり披露/フィリピンダンス「サンパギータダンスグループ」
市民ふれあい広場の今後の在り方についての検討	○ 財政が厳しいことから、今年度より各コーナーの費用(材料費、ガス代等)や看板は参加団体が用意する等により費用を削減 ○ 現在の「市民ふれあい広場」が来場者も多く市民の交流の場となっていることを踏まえつつ、今後のふれあい広場の在り方について大町市とともに検討

#### ● 参加団体数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
参加団体数	60	59	53	52	45



雨の中大町第一中学校生徒もボランティアで参加(10/8 大町市文化会館前広場)

● 参加団体名簿（順不同） 52団体

団体名（出展内容）	団体名（出展内容）
①おおまち食育応援団（試食・販売）	②大町市陶芸の家（陶芸作品）
②大町市社会福祉協議会指定障害福祉サービス事業所（ポップコーン、コーヒー、藍染め製品、EM石けん）	③大町市老人クラブ連合会（わら工芸作品）
③㈱てる坊市場（桑パイダー入り大判焼き）	④救護施設れんげ荘（手作りマット等）
④大町市社会福祉協議会（やきとり、フランクフルト）	⑤養護老人ホーム鹿島荘（輪投げ、バザー）
⑤特別養護老人ホームカトレヤ（わたあめ）	⑥88ボランティア（モチーフ編みひざ掛け等）
⑥信濃大町のつけものや（漬物）	⑦大町市婦人会（石けん、バザー）
⑦ばいはるちゃん みとろ（クレープ、野菜、着物地オリジナル商品）	⑧福祉環境サービス（福祉用具の紹介）
⑧ゆずり葉の会（赤飯、豚汁等）	⑨いけだ地域活動支援センター“くわの木”（さおり織製品、手すき和紙製品）
⑨共同作業所がんばりやさん（手作りクッキー、パン）	⑩安曇野アイターン友愛会とセルフビルドの会「たたった」（おもちゃの修理、移住交流相談会）
⑩パン工房わたぼうし（天然酵母パン）	⑪信州草木染木崎工房（草木染め）
⑪大北建設労働組合（木工広場、住宅なんでも相談、包丁研磨サービス）	⑫大町保健福祉事務所（おでかけ保健所）
⑫大町市赤十字奉仕団（日赤炊き出し）	⑬大町市社会福祉協議会（訪問入浴車の展示、入浴サービスの紹介）
⑬中央保健センター・歯科医師会（健康と歯科情報、実験）	⑭（一社）長野県自動車整備振興会大町支部（マイカー点検教室）
⑭ハーブの風共同作業所（パン、手作りカレンダー、木工品）	⑮市立大町総合病院（ミニ健診、手術体験、お子様限定の試着撮影）
⑮市立大町総合病院（ぶによぶによ玉すくい）	⑯大町市くらしの会（陶器のリサイクルについて）
⑯ホットネット日溜（自家焙煎コーヒー、八坂産野菜、ニット製品、草木染め製品）	⑰大町市消費生活センター（消費生活相談事例の紹介）
⑰仁科台中学校PTA（日用品バザー）	⑱大町市生活環境課（環境展）
⑱北アルプス広域シルバー人材センター（会員募集、チラシ等配布、ネギ、ジャガイモ）	⑳大町市市民課（高齢者等の交通事故防止）
⑲大町市民生児童委員協議会（熊本復興応援物産、民生委員・児童委員 活動紹介）	㉑大町市子育て支援課（わんぱく広場）
⑳ときわ農産物直売所かたくり（季節の農産物）	㉒大町市子ども会育成連絡協議会（少年リーダーの「ものづくりコーナー」）
㉑大町市女性団体連絡協議会・大町市男女共同参画コミュニケーター大町地区（各団体の活動紹介、熊本地震被災地支援バザー）	㉓大北地区保護司会大町支部（「更生ペンギンのホゴちゃん」のお絵描き、更生保護の紹介・PR）
	㉔大町市建設課建築住宅係（住宅の無料耐震診断受付）
	㉕大町市を愛する女性の会（映画 折梅）
	㉖サンパギータダンスグループ（ステージ発表）

【評価と展望】

- 今年度は会場内に「飲食・休憩スペース」を設けた。従来から会場で食べ物を購入しても食べるスペースがない状態が続いていたため、好評だったと考えている。また毎年、駐車スペースが少なく、来場者にご迷惑をおかけすることがあったが、今年度は別の駐車場等を用意して、できる限りの対策をするように努めた。
- 今年度は各コーナーの費用（材料費、ガス代等）や看板代等を各出展者で負担してもらうこととした。その結果、支出のうち「材料費」、「会場費」併せて、約217,000円程度の費用が削減できた。財政的な不安が払拭されたことで、継続可能とする基礎ができたが、引き続き開催方法等について検討していく。

## 2. ボランティア活動の推進

ボランティアセンターの活動や役割の周知を図り、ボランティア活動への理解促進と、活動に参加しやすい環境づくりに努めました。また、DSATへの参画による関係機関との連携強化や、被災地支援に努めました。

### (1) ボランティアセンター運営事業

ボランティアセンター運営委員会の開催やボランティア保険手続き、備品貸出等により、ボランティア活動を支援しました。

項 目	実施結果・内容			
相談・登録・ニーズ把握・コーディネーター機能の充実	○ ボランティアに関する相談、連絡調整、ボランティア登録を実施 ◆ 登録状況 ボランティア団体 100団体 6,665人 小地域福祉ネットワーク 46団体 2,738人			
ボランティアセンター運営委員会の開催	○ ボランティアセンターの適正な運営を図るため、運営委員会を開催 ◆ 第1回 9月26日（月）13人出席 内 容 平成28年度の取り組み、ボランティア講座 ボランティア交流研究集会について ◆ 第2回 3月9日（木）11人出席 内 容 平成28年度事業報告、ボランティア基金の活用 平成29年度事業計画について			
個人・団体への各種備品の貸し出し	○ 備品の貸出実績（別表参照） ○ 機材使用実績			
	コピー機	団体数 19 団体	白 4,516 枚	カラー 386 枚
	パソコン	団体数 4 団体	延べ 29 回	
ボランティアに関する各種保険窓口業務	○ボランティア活動保険加入状況 Aプラン 1,420人 Bプラン 432人 ○ボランティア行事用保険、福祉サービス総合補償保険等各種保険加入の窓口業務実施			
ボランティアニュースの発行	○年6回発行（奇数月）全戸、市内小中高校、NPO法人配布 9,600部			

#### ● ボランティア登録団体数の推移 (単位：団体)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
登録団体数	84	83	88	98	100

#### ● 備品の貸出実績内訳 (単位：件)

品名	車いす	体験用車いす	高齢者疑似体験	シルバーカー	点字器	アイマスク
件数	72	54	4	1	161	104
品名	プロジェクター	スクリーン	テント	ワイヤレスマイク	ポップコーン製造機	綿菓子製造機
件数	123	37	1	6	15	14
品名	ポッチャ	カーレット	ゲーム用品	暗幕	小銭計数機	ジンリキ
件数	13	17	9	1	1	1
品名	白杖	ふれあいの箱	福祉DVD			
件数	8	3	1			

● ボランティアニュースの発行内容

号 数	発行日	主な記事
173号	5月1日	貸出備品紹介/点訳本紹介/ボランティアグループ紹介 ボランティア団体登録と助成金の申請について
174号	7月1日	希望の旅参加者募集/傾聴ボランティア養成講座参加者募集 お出掛けボランティア講座参加者募集
175号	9月1日	収集ボランティア募集/ボランティアグループ紹介 イベント応援ボランティア募集
176号	11月1日	福祉啓発標語募集/災害義援金報告 障害者差別解消法勉強会参加者募集
177号	1月1日	大町市社会福祉大会開催/ボランティア活動保険料改定周知 義援金募集/寄附と税額控除
178号	3月1日	福祉啓発標語入選者発表 ボランティア保険のご案内/知って得する社協の講座参加者募集

【評価と展望】

- ボランティアセンター運営委員会の定期開催により、ボランティア基金の活用方法やボランティア事業についての詳細な検討と事業実施が行われた。
- 引き続きボランティアに関する相談や調整業務の強化、地域への情報発信に努め、身近で相談しやすいボランティアセンター運営を行う。

(2) ボランティア活動相互連携事業

例年開催してきた「ボランティア交流研究集会」を「大町市社会福祉大会」として開催したほか、大北ブロック内の活動者の相互連携を図りました。

項 目	実施結果・内容
大町市社会福祉大会	<p>開催日 平成29年1月29日</p> <p>会場 サン・アルプス大町</p> <p>参加者数 約170名</p> <p>内 容 表彰（社会福祉功労者表彰、感謝状、訪問入浴車愛称入選表彰、福祉啓発標語入選者表彰） 講演 テーマ「常識の裏側」 講 師 江口 歩 氏 新潟お笑い集団NAMARA 代表 (有)ナマラエンターテイメント代表取締役</p>
大北ブロックボランティア地域活動フォーラム（池田町社協が当番社協として開催）	<p>開催日 11月3日</p> <p>会場 池田町総合福祉センター「やすらぎの郷」</p> <p>参加者数 約70名</p> <p>内 容 講演 テーマ「住民活動が地域を創る ～今までもこれからも～」 講 師 白戸 洋 氏 松本大学教授</p>
大北ブロックボランティアセンターとの連携 （合同で先進地視察研修を実施）	<p>実施日 平成29年2月17日</p> <p>参集職員 大北ブロック各社協ボランティアセンター及び地域福祉担当職員 計9名</p> <p>視察先等 ①山形村社会福祉協議会 フードバンク協力ボランティアについて ②安曇野市社会福祉協議会 堀金支所 子ども服等常設リユースむすび隊について</p>

【評価と展望】

- 本年度より「ボランティア交流研究集会」を「社会福祉大会」に改め、これまで市民ふれあい広場のオープニングセレモニーで実施していた表彰と併せて実施した。初めての開催であったが、スムーズな進行ができた。今後この形で定着を目指す。
- 介護保険の日常生活支援総合事業は、保険者毎に独自のサービス体系を目指すものであり、より大北地域の相互連携が必要となる。合同の視察研修は、各社協の担当職員が新たな取り組みの必要性を感じ、それを共有できたことで実現した。今後も、大北ブロック社協間の連携を深めたい。



大町市社会福祉大会で表彰を受けた皆さん（1/29 サン・アルプス大町）

### （３）災害ボランティア支援事業

項 目	実施結果・内容
DSAT（ディーサット）への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県内で災害が発生した際に、県社協とともに被災地の災害ボランティアセンターの運営を支援する県内社協応援協定に基づき、先遣隊として派遣する特別チーム（DSAT）に参加</li> <li>○ H28年度第2回災害ボランティアセンター運営者研修に参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>開催日 12月7日～8日</li> <li>会 場 信州松代ロイヤルホテル</li> <li>主 催 全国社会福祉協議会/長野県社会福祉協議会</li> <li>参 加 職員1名 ※ 以後DSATとして登録し活動に参加する</li> </ul> </li> </ul>

【評価と展望】

- 長野県社協が実施する災害派遣特別チーム（DSAT）に参画し、各種研修に参加することで、県内市町村社協並びに、他機関の災害支援団体と顔の見える関係が図られ今後の災害支援活動への対応、さらに、地元が被災した際には大きな力となると感じた。
- 今後は、DSATとして活動する経験を地域に還元していく。



### Ⅲ 安心して暮らせるまちづくり

日常生活で支援を必要とする人が住み慣れた地域で暮らし続けるための各種在宅福祉サービス等を提供し、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが生きがいを持って「安心して暮らせるまちづくり」を推進しました。

#### 1. 生活支援活動の推進

一人では解決できない暮らしの中の悩みごとや、身体状況・居住環境による外出困難、認知症や障がい等による判断能力の低下、雪かき支援員の派遣等に対応するサービスを提供し、生活支援活動の推進に努めました。

##### (1) 心配ごと相談事業

暮らし中の悩みごとについて、1人で悩むことのないよう、解決の糸口を相談員とともに見出していく相談窓口を開設しました。

項 目	実施結果・内容
心配ごと相談	○ 毎月2回開設
司法書士相談	○ 相談件数61件（前年対比6件増）
相談員の研修	○ 参加なし

##### ● 相談内容

（単位：件）

区分	生計	土地 家屋	家族	離婚	財産	金銭 貸借	結婚	近隣	苦情	その他	合計
H27	0	8	6	2	23	8	1	4	0	3	55
H28	2	22	5	0	15	6	1	3	0	7	61

##### ● 相談件数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
相談件数	49	65	73	55	61

##### 【評価と展望】

- 法律に関する相談が増えている。
- 解決につながらないが、悩みを聞いてほしいという願いから相談に至ったケースも多い。傾聴が大切である。

一人じゃない 君の心へ 届く声

（大町仁科台中学校1年 一志瑞稀さん）

思いやりで 心もたのしく あたたかに

（大町西小学校2年 宮澤凜果さん）

平成28年度 福祉啓発標語 優秀作品

## (2) 福祉輸送サービス事業

一人では公共交通機関が利用できない高齢者や障がい者等の外出を支援するため、車いすに乗ったまま乗り降りできる福祉車両による送迎サービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容
福祉輸送サービスの提供	○ 通院や買い物等の外出支援として福祉車両による送迎サービスを提供 運行時間 平日8:30～17:00（祝日・年末年始を除く） 利用料金 市内500円、市外1km当たり50円を加算 運行範囲 市内発着で市境から20km以内 ◆ 運行日数・回数 247日・延べ2,288回 ◆ 年度末利用登録者数 132人（うち新規登録者数 36人） ○ 大田市福祉有償運送運営協議会と協議後、長野県に自家用有償旅客運送の有効期間更新を申請（平成29年4月1日～平成32年3月31日）
福祉車両の貸し出し	○ 空き時間に福祉車両を貸し出し（年末年始を除く） ◆ 利用回数 延べ6回
運転手の確保	○ 国土交通省認定STS講習を受講 ◆ 受講者数 3人
サービス内容の検討	○ 利用料金の見直しについて理事会で協議 ◆ 消費税率の変更に合わせ、見直しを行う方針

### ● 年度末利用登録者数の推移

年 度	H23	H24	H25	H26	H28
利用登録者（人）	141	115	138	142	132

### ● 拠点別運行回数の推移

（単位：回）

年 度	H23	H24	H25	H26	H28
大 町	1,722	1,641	1,778	2,179	2,058
八 坂	690	462	162	138	139
美 麻	304	234	124	89	91
合 計	2,716	2,337	2,064	2,406	2,288

#### 【評価と展望】

- 八坂・美麻地区の運行回数は前年度とほぼ同じ実績であった。
- 大町地区では、「登録車両3台全てが同時に運行するまで利用予約を受ける」方針を維持し、利用者の利便性を高めるよう努めたが、人工透析などで利用頻度が多い利用者の死亡や長期入院等により運行回数が微減した。今後も柔軟な受入れに努めていく。



### (3) 日常生活自立支援事業

大北地域の基幹的社協として、判断能力が十分でない人（認知症、知的障がい、精神障がい等）の福祉サービスの利用援助や、日常的金銭管理等のサービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容
福祉サービス利用 援助契約	○ 専門員による相談受付、県社協との協議、契約 ◆ 新規契約 11件 解約 14件 ○ 専門員、生活支援員による利用援助支援 ◆ 支援回数 1,196回（平均99回／月） ○ ケース検討会議の出席 対象者25人 延べ39回
成年後見制度との 連携	○ 判断能力が低下している方の支援について、県社協契約締結審査会へに 審査を依頼 ○ 成年後見支援センター、包括支援センターの事例検討会に出席し、判断 能力低下している利用者の成年後見への移行について検討
サービスの向上	○ 県全体の生活支援員を対象とした研修会に参加 ◆ 2期目以降 10月7日 塩尻総合文化センター

#### ● 年度末契約者数・延べ支援回数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
年度末契約者数（人）	55	59	75	79	76
延べ支援回数（回）	2,462	2,490	2,204	2,780	2570

#### ● 市町村別・対象者別契約者数（平成 29 年 3 月末現在）

（単位：人）

対象者	大町市	池田町	白馬村	小谷村	合計
認知症高齢者	17	3	6	1	27
知的障がい者	16				16
精神障がい者	26	2	2	1	31
そ の 他	2				2
合 計	61	5	8	2	76

※ 松川村は平成 28 年度から準基幹的社協として直営で実施。

#### 【評価と展望】

- 例年に比べると新規契約件数は減少している。また、認知症高齢者より精神障がい者の契約が増加傾向である。
- 判断能力の低下が著しい利用者については、成年後見支援センター、市町村行政、包括支援センター等の関係機関と連携しながら成年後見制度への移行を順次進めていく。
- 生活支援員及び町村の担当者を含め、独自で研修会を実施するよう検討する。
- 支援体制強化のため、次年度生活支援員養成講座を開催する。

受けいれて あなたの個性 私の個性

（大町仁科台中学校2年 横山咲良さん）

平成 28 年度 福祉啓発標語 優秀作品

#### (4) 成年後見支援センター事業

大北地域を対象に、判断能力が十分でない人（認知症、知的障がい、精神障がい等）の成年後見制度の利用に関する相談や制度の普及・啓発、また、親族や専門職等による支援が難しい人の法人後見を受任するため、北アルプス成年後見支援センターを開設しました。

項 目	実施内容・結果
制度の利用に関する 相談・支援	○ センター職員による相談（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士）による相談会 ◆ 5月より毎月1回開催 相談件数33件
普及・啓発	○ 普及啓発講演会を実施 ◆ 第1回 平成28年6月10日 大町市 参加者数 78名 ◆ 第2回 平成28年7月15日 白馬村 参加者数 38名 ◆ 第3回 平成28年8月17日 池田町 参加者数 53名 ○ 広報紙、パンフレット、ホームページ等による広報の実施 ○ 地域包括支援センターとの事例検討会の開催 年5回 ○ 各種会議等出席時にセンターの事業説明を実施
運営委員会等の開催	○ 運営委員会 ◆ 第1回 平成28年5月16日 正副委員長の選出 センター運営方針等 ◆ 第2回 平成29年3月13日 事業経過報告 平成29年度事業計画等 ○ 小委員会 ◆ 第1回 平成28年5月16日 法人後見受任の適否 1件 ◆ 第2回 平成28年8月22日 法人後見受任の適否 2件 ◆ 第3回 平成29年3月13日 法人後見受任の適否 1件
法人後見の受任	○ 家族や専門職等による支援が難しい人の法人後見を受任 ◆ 後見2件、保佐1件

#### ●相談件数及び法人後見受任の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
相談件数	—	—	—	—	99
法人後見受任件数	—	—	—	—	3

#### ●市町村別・区分別相談件数

（単位：件）

市町村別	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	圏域外	合 計
	51	14	14	15	1	4	99
区分別	認知症高齢者		知的障がい者	精神障がい者		一 般	
	52		8	24		15	

#### ●市町村別・類型別法人後見受任数

（単位：件）

類 型	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	合 計
後 見		1		1		2
保 佐		1				1
補 助						
合 計		2				3

【評価と展望】

- 相談・支援業務の対象者は、認知症高齢者が半数以上であった。
- 相談内容は、制度全般や申立手続き、後見候補等の相談が多かったが、親族からの相談では、相続や財産管理に関するものが多かった。
- 普及・啓発について、参加しやすいよう参集範囲を決めて実施していく。
- 法人後見について、受任した3件は全て首長申立であった。今後も増える見込みであり、市町村行政及び地域包括支援センター、大北圏域障害者総合支援センターと連携していく。
- 判断能力が十分にある相談者からの任意後見契約の希望があるが、他の後見支援センターの対応などを参考に検討していく。
- 職員の資質向上が必要であり、研修会等への参加をしていく。
- 法人後見支援員養成講座は、受任件数が少ないことから、来年度以降に実施する。
- まだ成年後見制度の周知が十分でないことから、積極的な周知活動を展開していく。

## (5) 豊かな暮らし応援事業

生活の不便さを少しでも解消するサービスの提供や、暮らしに役立つ講座の開催を通して、豊かな暮らしの増進に努めました。

項 目	実施結果・内容
美麻診療所患者輸送業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運行日数 132日（毎週月・水・木曜日）</li> <li>○ 延べ利用者数 529人（平均4.0人／月）</li> </ul>
八坂・美麻配食サービス配達業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 八坂・美麻地区内の高齢者等を対象に、各地域福祉センターを拠点とした配達ボランティアによる配食弁当の配達業務を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 配達件数（八坂：延べ36食 美麻：延べ243食）</li> <li>◆ 実働ボランティア数（八坂：1人 美麻：1人）</li> </ul> </li> </ul>
雪かき支援員派遣業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 独居または高齢者のみ等で雪かきが困難な世帯に支援員を派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 延べ派遣回数 1,970回</li> <li>◆ 延べ作業時間 1,467時間</li> <li>◆ 延べ除雪機使用時間 746.5時間</li> <li>◆ 登録世帯数 218世帯（内実利用世帯数 185世帯）</li> <li>◆ 雪かき支援員数 48人、5団体</li> </ul> </li> <li>○ 市内自治会長を対象に、雪かき支援の現状説明会を開催 前年実績値をもとに、自治会別の支援員数と支援希望者数を提示 支援員不足の現状を理解いただき、本事業への協力を呼びかけ <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 大町地区 大町地区自治会懇話会（9/16、参加者11名） 共同募金大町分会会議（9/21、参加者35名）</li> <li>◆ 平地区 平地区敬老会説明会（7/11、参加者20名）</li> <li>◆ 常盤地区 区長会定期会議（8/5、参加者7名）</li> <li>◆ 社地区 日赤・男女共同参画合同研修会（7/30、参加者40名）</li> </ul> </li> <li>※ 八坂、美麻地区は、シルバー人材センターが本事業を受託</li> <li>○ 支援員登録者対象の説明会（11/15）</li> <li>○ 支援員会議・意見交換会 ※ 事業期間終了後</li> </ul>
高齢期安心生活支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢期を豊かで自分らしく生活するため、「知って得する社協の講座」を開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 場所 大町市総合福祉センター大会議室</li> <li>◆ 内容 3月 3日（金）「お片づけ講座」 参加者 62人 3月 8日（水）「成年後見制度」 参加者 40人 3月10日（金）「高齢者のメンタルヘルス」 参加者 56人 3月15日（金）「相続について」 参加者 41人</li> </ul> </li> </ul>

項 目	実施結果・内容
育児支援ヘルパー派遣	安心して子どもを産み、育てるために、妊娠から出産後の必要に応じた支援を提供 ○開設日数 359日（年末年始除く月～日曜日） ○延べ利用者数 1人 ○延べ利用日数 10日

● 美麻診療所患者輸送業務延べ利用者数の推移 (単位：人)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用者数	798	842	680	612	529

● 八坂・美麻配食サービス配達業務利用件数の推移 (単位：件)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
八坂地区	897	550	110	0	36
美麻地区	181	125	75	67	243
合 計	1,078	675	185	67	279

【評価と展望】

- 配食サービス配達業務は、美麻地区で毎日配達の要望があったが、ボランティアが配達できない日には、職員が配達するなど臨機応変に対応できた。
- 雪かき支援員派遣業務は、事前に説明会を実施した結果、数地区から問い合わせがあり、「雪かきは地区で行うべき」との意見もいただき、「お互いさまの支え合い」の啓発につながった。また、チームでの雪かき支援体制を目指し、新たに2団体に依頼することができた。これを定着させ推進していきたい。事業終了後の支援員会議において、「感謝の言葉が励みになった」との前向きな意見や、除雪の範囲など多くの意見をいただいた。行政と話し合い、次年度以降改善していきたい。支援員は不足しており、今年状況を踏まえて地域での雪かき支援体制の構築を目指す。
- 高齢期安心生活支援業務は、定期開催をすることにより、身近に役立つ講座として定着してきたと感じる。高齢期に有意義な生活を過ごすために知識を身につけたいと感じている方が多いことから、今後も介護予防や生きがい、交流の場づくりの面からも継続していきたい。
- 育児支援ヘルパー派遣業務は、妊産婦の心身状況を考慮しながら、希望に応じ、保健師、ヘルパーと必要なサービスの調整を図っていきながら、産前産後の不安が少しでも取り除けるように関わりを持っていく。



知って得する社協の講座「お片づけ講座」(3/3 大町市総合福祉センター)



## 2. 高齢者福祉活動の推進

高齢者が生きがいを持って充実した在宅生活を継続できるよう、サービスを提供しました。

### (1) 生きがいデイサービス事業

介護予防のため、心身機能の維持向上とコミュニケーション等による生きがいづくりの場を提供しました。

項 目	実施結果・内容
デイサービスセンターみさか	○ 開設日数 243日（祝日、年末年始を除く） ○ 平均契約者数 4人／月 ○ 延べ利用者数 173人（平均14.4人／月）
デイサービスセンターみあさ	○ 開設日数 243日（祝日、年末年始を除く） ○ 平均契約者数 3人／月 ○ 年間延利用者数 136人（平均11.3人／月）
生きがいづくりの支援	○ 残存機能維持を目指し、手先を使った活動と、利用者同士によるコミュニケーション等で意識の向上及び介護・認知予防を支援
心身機能の維持・向上目的の活動	○ 現在の生活を継続するための機能訓練を目的としたレクリエーション、仲間づくり支援・脳トレを実施

#### ● 生きがいデイサービス延べ利用者数の推移 (単位：人)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
デイみさか	140	197	139	141	173
デイみあさ	179	148	227	133	136
合 計	319	345	366	274	309

#### 【評価と展望】

- 介護保険対象外でも介護予防のための利用希望が増え、利用増となった。生きがいデイは総合事業へ移行となるが、今後も同様の需用はあると推測する。（みさか）
- 新規利用者が3名増となったが、介護保険への移行者が2名となり、生きがいの利用者はほぼ同数で推移した。（みあさ）

### (2) 生活支援ホームヘルプサービス事業

利用者の残存能力を引き出して自立を促すように努めながら、家事援助を中心としたホームヘルプサービスを提供しました。

項 目	実施結果・内容
生活支援ホームヘルプサービス	○ 開設日数 243日（祝日、年末年始を除く） ○ 平均契約者数 4人／月 ○ 延べ訪問回数 193回（平均16.1回／月）

#### ● 生活支援ホームヘルプサービス延べ訪問回数の推移 (単位：回)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ訪問回数	420	252	306	199	193

#### 【評価と展望】

- 生活支援事業としては、28年度にて終了となるが、引き続き介護予防・日常生活支援総合事業へ移行され、サービスの展開を図っていく。
- 関係機関との連携を更に深めて、利用者の望むサービスの提供に努めていく。

### 3. 介護保険事業の推進

利用者、介護者の多様なニーズに応えるべく、柔軟なサービスの提供に努めました。

#### ● 介護保険収入の推移

(単位：千円)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
介護保険収入	257,249	259,378	255,412	244,643	247,062

#### (1) 居宅介護支援事業

「利用者本位」と「自立支援」を基本に、利用者の状況に応じた迅速な対応に心がけ、より質の高いケアマネジメントに努めながら、居宅介護支援サービスを提供しました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 開設日数 243日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末登録者数 80人 ○ 延べ利用者数 943人（平均78.6人／月）
居宅介護サービス計画の作成・モニタリング	○ 必要に応じて病院・施設に出向き、本人や家族と在宅に戻ってからの介護サービスを相談、各必要事業所と連携 ○ 毎月1回以上自宅に訪問してモニタリングを実施 ○ サービスが適切か常に本人・家族と相談
介護全般の相談・手続きの代行	○ 介護全般に関わる相談を随時受付 ○ 介護認定の更新、その他各種手続きを代行
ケアプラン指導研修等の参加	○ ケアプラン指導研修に参加 ◆ 認知症・難病の基礎知識、他職種連携研修、その他

#### ● ケアプラン作成件数の推移

(単位：件)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
要 支 援	111	149	130	120	105
要 介 護	1,047	996	933	956	838
合 計	1,158	1,145	1063	1,076	943

#### 【評価と展望】

- 介護支援専門員として資質の向上を図り、ケアマネジメント業務充実に努めた。
- 収支の改善は困難な状況であったが、地域需要に対応した体制を整えていく。
- 独居や高齢者世帯等で家族支援が得られないケースもあり、関係機関と連携を強化して対応していく。

すてきだな 今もえがおで みらいもえがお

(大町西小学校2年 北澤由楽さん)

こんにちは 笑顔を交わし 町作り

(一般の部 常盤 磯野時子さん)

平成28年度 福祉啓発標語 優秀作品

## (2) 訪問介護事業

介護サービスを使いながら住み慣れた地域で生活できるよう、その人の意志を尊重し、支援を行いました。また新事業を取り入れるための準備を行いました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 開設日数 365日 ○ 年度末契約者数 104人 ○ 延べ訪問時間 15,394時間（平均1282.8時間／月）
訪問介護員の確保	○ ハローワークへの募集を継続すると共に、以前勤務経験のある介護員にも再就労を声かけ
関係機関との調整	○ 利用者の心身の状態変化やサービスの希望に応じるため、介護者やケアマネージャーをはじめ関係機関と情報を共有
介護員の質の向上	○ 年間計画を作成し、定期的な研修を実施
介護予防支援	○ 要支援認定者の「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行準備、指定事業所申請を実施

### ● 延べ訪問時間数の推移

(単位：時間)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
要 支 援	2,740	3,102	2,695	2,800	2,785
要 介 護	18,081	19,254	18,262	16,683	15,394
合 計	20,821	22,356	20,957	19,483	18,179

#### 【評価と展望】

- 介護員の高齢化に伴い、人員の確保に努めていく。
- 介護度の高い方の施設入所や入院、ショートステイの定期的な利用等により稼働に変動がみられる。
- 「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行により、利用者が混乱しないよう助言していく。また、サービスの質を落とさずに事業展開していく。

## (3) 訪問入浴介護事業

自宅での入浴が必要な利用者に安心して心地よい入浴サービスを提供するとともに、介護者の負担軽減になるよう介護相談などの支援を行いました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 開設日数 257日（12/29～1/3を除く月～金曜日） ○ 平均契約者数 12.6人／月 ○ 延べ訪問回数 763回（平均63.5回／月）
訪問入浴サービスの提供	○ 皮膚トラブルや体調の変化に迅速に対応 ○ ケアマネージャーに近況報告や空き状況を伝えるため訪問
サービスの質の向上	○ 救命救急法研修に参加 ○ 接遇の研修に参加
中山間地域への対応	○ 白馬村・小谷村に積極的にサービス提供 ◆延べ利用者数内訳：白馬・小谷 303人・大町 460人

### ● 延べ利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用者数	434	494	596	571	763

#### 【評価と展望】

- 登録職員を3名確保し、サービス提供体制が強化できた。
- ケアマネジャーとの信頼関係構築により新規利用者が徐々に増加した。今後もケアマネジャーとの連携を強化していく。
- 体重計を備えた訪問入浴車を横澤氏より寄贈いただいた。遠方（白馬・小谷）でも荷物が沢山積めるため、最高5件の稼働が可能になった。
- 体重測定が出来る事によりご利用者の健康管理が向上した。引き続き、訪問看護との連携を強化していく。

### （４）通所介護事業

心身機能の維持・向上のための機能訓練やレクリエーション活動を充実するとともに、ニーズに応じた柔軟な利用調整に努めながら、通所サービスを提供しました。

#### ● 延べ利用者数の推移（要支援・要介護合算） （単位：人）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
ひなたぼっこ	1,952	2,321	2,598	2,892	3,124
こすもす	6,607	6,929	6,391	5,864	5,858
みさか	3,069	3,594	4,362	4,442	4,191
みあさ	4,186	3,986	3,798	4,156	4,156
合 計	15,814	16,830	17,149	17,354	17,329

#### ① デイサービスセンターひなたぼっこ（認知症対応型デイサービス）

地域とのつながりを深めながら、認知症の進行緩和と介護者支援を目的としたサービスを提供し、在宅生活が継続できるよう支援に努めました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開設日数 359日（年末年始12/29～1/3を除く）</li> <li>○ 年度末契約者数 22人（3月末現在）最大26人実績あり</li> <li>○ 延べ利用者数 3,124人（平均260.3人／月、8.7人／日）</li> </ul>
利用者ニーズに応じたサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 当日の臨時利用にも迅速に対応</li> <li>○ 送迎時間など家族の希望にできるだけ沿えるよう対応</li> <li>○ 体調を崩された方の滞在と受診または帰宅までの調整を実施</li> </ul>
自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年末入浴サービスを実施（自費サービス：1,400円）</li> <li>◆ 実施日：12/30 利用者数：10人</li> </ul>
運営推進会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域との連携・運営の透明性の確保を目的とした会議を開催</li> <li>◆ 第1回 10/26 6名出席</li> <li>◆ 第2回 2/24（白塩町との鍋会と併せ開催）</li> <li>白塩町ボランティア、利用者、職員、ご家族 合計25名参加</li> </ul>
介護者の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 相談窓口を常設し、関係機関等との連携により、希望に応じた支援を提案・実施</li> </ul>
支援ボランティアの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域交流事業の企画・運営と親睦</li> <li>◆ 7回実施 ボランティア15人、利用者61人、職員57人参加</li> <li>◆ 職場体験学習の受入れ 第一中学校より女子1人受入れ（2日間）</li> <li>◆ 県外より1人（沖縄三線奏者 木屋さん）</li> <li>○ 情報誌による認知症についての啓発活動</li> <li>◆ 日常の様子や看護師、介護員の視点からの記事含め4回発行</li> </ul>

● 延べ利用者数の推移

(単位:人)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
要 介 護	1,952	2,321	2,598	2,892	3,124

【評価と展望】

- 家族からの相談等は送迎時からの対応に心がけ、必要に応じて電話連絡や時にはデイサービスの紹介を兼ねて来所いただいた。
- ケアマネージャーやあづみ病院認知症疾患医療センターと協働し、利用者およびご家族支援に努め、安心して利用できるサービスに繋げることができた。
- ショートステイを併用される方や症状の進行により施設入所されるケースが増え、市内の認知症対応型デイサービスの稼働状況の変動幅が大きくなった。
- 市内4地区からの利用者を受入れているが、送迎車2台では希望された時間帯での送迎が困難となる日が増えた。送迎車の運用の仕方について検討が必要となった。
- 急を要する臨時利用者の受入れについて、定員を超えた場合の自費サービスを模索する。
- 職員（看護師・介護員）の成り手不足が今後の運営に影響を与えることが懸念される。育成を念頭に置いた専門職（特に看護師）の確保と配置が課題である。

② デイサービスセンターこすもす

心身機能の維持・向上のための機能訓練やレクリエーション活動を充実させるとともに、ニーズに応じた柔軟な利用調整に努めながら、通所サービス提供を行いました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開設日数 359日（年末年始を除く）</li> <li>○ 年度末契約者数 78人（介護給付50人、介護予防28人）</li> <li>○ 延べ利用者数 5,858人（平均488.2人/月、16.3人/日）</li> </ul>
利用者ニーズに応えるサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭事情に応じ施設・火の元・照明や暖房の確認を実施</li> <li>○ 日々の利用における状態観察により、体調変化やサービスの希望に対応</li> </ul>
自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年末入浴サービスを実施（12/29 利用者4名）</li> </ul>
職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 救急救命講習会に参加</li> <li>○ 月例カンファレンスにより情報を共有</li> </ul>
在宅生活継続の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歩行訓練の声掛け、運動機能向上サービスを提供</li> <li>○ 入浴サービス等により、心身の衛生を保持</li> </ul>
入浴設備の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特殊浴（機械浴）による入浴サービスを提供（4.4人/日）</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 芸能ボランティア週間の企画や外出行事における支援ボランティアの依頼、幼稚園児との交流等を通して、事業の様子を広報</li> </ul>

● 延べ利用者数の推移

(単位:人)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
要 支 援	1,809	2,637	2,449	1,740	1,834
要 介 護	4,798	4,292	3,942	4,124	4,024
合 計	6,607	6,929	6,391	5,864	5,858

【評価と展望】

- 利用者全体に占める割合として要介護利用者が減った分要支援の利用者が増えている。収入増には繋がり難いが、サービスの質を低下させないよう努めていく。
- 要介護利用者は介護度が高くなると在宅から施設入所へ流れる傾向にあるため、減った分の利用者獲得に努力していく。
- 引き続き介護者やケアマネとの連携強化や、家族からの情報ほか活動記録情報との比較などにより、細やかなサービス提供に努めていく。

### ③ デイサービスセンターみさか

利用者と介護者の希望に応じたサービス提供に努めました。

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 開設日数 257日（年末年始を除く月～金曜日） ○ 年度末契約者数 38人（支援10人、介護28人） ○ 延べ利用者数 4,191人（平均349.3人／月、16.3人／日）
利用者ニーズに応じたサービスの提供と安定経営	○ 利用者の利用日数・家族の都合による利用変更などに柔軟に対応 ◆ 日々の利用者数に応じた受入れ、家族の急な利用要請に対応 ◆ 延べ利用者数・前年対比約94%
新規利用者の確保	○ 新規利用者8人（八坂地区7人・大町地区1人）
介護予防支援	○ 要支援から「介護予防・日常生活支援総合事業」に移行するための準備、指定事業所申請を実施
自主事業の実施	○ 年末入浴サービスを実施（12/29 利用者16人）

#### ● 延べ利用者数の推移

（単位：人）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
要 支 援	276	570	836	718	740
要 介 護	2,793	3,024	3,526	3,724	3,451
合 計	3,069	3,594	4,362	4,442	4,191

#### 【評価と展望】

- 介護度が高くなると在宅介護が困難になり、施設入所者が増え急に利用中止になる。
- 介護度が比較的低い方が多いことに加え、利用減により、収入は前年を下回った。
- 居宅・家族・みさか等のコミュニケーションを密に行っているため、利用者の体調の変化等早めの処置により介護者等の負担軽減が図られている。今後も継続していく。
- 地域の利用者の多様化に応え、「介護予防・日常生活支援総合事業」を実施していく。

### ④ デイサービスセンターみあさ

項 目	事業結果・内容
事業実績	○ 開設日数 257日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末契約者数 42人（要介護 30人、要支援12人） ○ 延べ利用者数 4,156人（平均346.3人／月、16.2人／日）
自主事業の実施	○ 年末入浴サービスを実施（12/30 利用者19人）
入浴設備の活用	○ 利用者の身体状態に合わせた安心・安全な特浴とリハビリ浴を活用 ◆ 特浴利用者数 平均15人／月
新規利用者の確保	○ 新規利用者 8人

#### ● 延べ利用者数の推移

（単位：人）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
要 支 援	1,182	943	909	723	598
要 介 護	3,004	3,043	2,889	3,433	3,558
合 計	4,186	3,986	3,798	4,156	4,156

#### 【評価と展望】

- 地区内の医療機関や関係機関との連携により新規利用者の確保し、安定稼働に努めた。
- 近年の温暖化に伴い、夏季は利用者の熱中症が懸念されることから、緊急避難の場として静養室にエアコンを設置した。
- 要介護の利用者、特に一人暮らしの方の他施設への移行が目立った。



## 4. 障がい者福祉の推進

個々の能力を活かし、その人らしい豊かな地域生活が送れるように多様な福祉サービスを提供しました。また、地域で支える住民に障がいへの理解を促す啓発活動の推進に努めました。

### (1) 障がい理解促進事業

講座の開催や講師派遣、交流をとおして障がい福祉への理解の促進に努めました。

項 目	実施内容・結果
障がい者理解促進講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「お出かけボランティア養成講座」を開講 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第1回 8月19日 障がいの基礎知識【講師：障害児童係 小野澤】 車いす体験【講師：地域福祉係 菅沢】</li> <li>◆ 第2回 9月2日 信州あいサポーター養成講座【講師：日本オストミー協会 柿本氏】 アイマスク、ガイドヘルプ体験【講師：地域福祉係 田辺】</li> <li>◆ 実習体験 9/12～16 ばいはるちゃんにみとろ5名/がんばりやさん5名/ひまわりの家5名/ハーモニー・ルーム1名</li> </ul> </li> </ul>
信州あいサポート運動への参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長野県が推進するあいサポート運動に理解協力し、障がい理解促進運動に取り組む企業として認定（認定式9月15日長野県庁）</li> <li>○ 認定企業として、信州あいサポート運動並びに障害者差別解消法について周知徹底を目的に職員研修を実施（11/21、12/1）</li> <li>○ 認定企業として実施してきた取り組みを長野県に情報提供（県のホームページに掲載）</li> </ul>
実習等の受入れを通じた啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大町岳陽高校「生活と福祉」講座に、講師として障害福祉サービス事業所の利用者1名を派遣</li> <li>○ 地区社協（小地域ネットワーク）視察（10/6 参加者10人）</li> <li>○ 障がい者理解促進講座実習体験（9/12～16 参加者5人）</li> </ul>

#### 【評価と展望】

- 障害者差別解消法の施行、信州あいサポート企業認定もあり、障がい者の余暇活動支援として実施してきた希望の旅事業に障がい者理解促進の目的を加え、講座を開講した。今後も同様の講座を継続していく。
- 障がいのある人が講師となり交流を持つことは、学生により理解を深める機会となった。

### (2) 障がい者余暇活動支援事業

イベントの企画・運営、情報発信をとおし社会参加の促進に努めました。

項 目	実施内容・結果
希望の旅	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リフト付き大型バス、中型バスの2台運行で企画・募集し、実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 実施日 9月30日（金）</li> <li>◆ 行き先 群馬県 浅間酒造観光センター・浅間火山博物館</li> <li>◆ 参加者内訳（参加者44人 内訳：身体14人、知的7人、精神4人、付添家族7人、支援ボランティア6人、職員6人）</li> </ul> </li> </ul>
ピアサポート事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域で暮らそうフォーラム 12/17（12人）長野大学</li> <li>○ 「落語を楽しもう」 3/8（60人）大町市総合福祉センター</li> </ul>
ピアカウンセリング講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ピアカウンセリング集中講座 3/22（6人）大町市総合福祉センター</li> </ul>

いっぽの会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「クリスマス外出」 12/16 (8人)</li> <li>○ 「善光寺観光」 3/24 (6人)</li> <li>○ その他10企画 延参加人数47人 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 4/22 (4人)、5/27 (4人)、6/24 (5人)、7/22 (7人)</li> <li>8/26 (2人)、9/23 (5人)、10/28 (6人)、11/25 (3人)、1/27 (4人)、2/24 (7人)</li> </ul> </li> </ul>
-------	---

● 障がい児・者希望の旅事業参加者数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
参加者数 (人)	48	42	48	44	44

【評価と展望】

- 「お出掛けボランティア養成講座」受講生が希望の旅に参加した。受講生のアンケートには、「当事者同士が互いに支え合って楽しんでいたことに感動した。」との意見もあった。
- 地域の受入れ体制が整ってきたことから、ピアサポート事業は活動を縮小していく。
- いっぽの会は、当事者が気軽に自分の気持ちを話せる場として定着している。今後は新規の方も入りやすい雰囲気づくりや当事者が主体となって運営できるよう支援していく。

### (3) 障がい者就業支援事業

地域で安心して働くことができるように障がい者・事業所等、双方への情報提供や就業に必要な訓練・実習などを支援し、障がい者の社会参加促進に務めました。

項 目	実施内容・結果
障がい者の就労に向けた支援(職業準備訓練、現場実習機会の提供)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 支援対象障がい者数 203人</li> <li>○ 障がい者に対する相談・支援件数 1,208件</li> <li>○ 職業準備訓練及び職業実習のあっせん数 22件</li> <li>○ 就職件数 18件</li> </ul>
障害者雇用についての企業への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がい者短期トレーニング促進事業により、障がい者の短期職場実習(1ヶ月以内)に係る経費を実習者に支給</li> <li>◆ 対象者：障害者就業・生活支援センター登録者</li> <li>◆ 利用者：9人(延べ72日実施)</li> </ul>
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大町公共職業安定所雇用指導官と連携し、企業訪問を実施</li> </ul>
職場定着支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいを開示している人の就労先へ定期訪問し、事業所の困りごとと在職者の困りごとについて調整</li> <li>○ 企業への訪問以外では、就職後の面談、電話・メール等での相談支援</li> </ul>
障がい特性を踏まえた雇用管理についての事業所に対する助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電話、訪問、支援会議等により、知的障がい者の職場実習後の雇用検討、トライアル雇用期間中の精神障がい者の就労状況調査、発達障がい者の雇い入れに向けた調整、高次脳機能障がい者の職場復帰に向けた調整等</li> <li>◆ 相談・支援実施事業所：26事業所</li> </ul>

● 大北圏域の障がい者の就業実績の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
就職件数 (件)	16	17	16	36	18

【評価と展望】

- 障がいを開示せずに就労している方については、本人と事業所の間でトラブルが生じても支援者が直接介入できないことから、働き続けることが難しいケースが多い。
- 障がい受容できていない方に関しては、職場定着せず離職に繋がるケースが多いため、本人の障がい受容に関する支援が課題となる

#### (4) 地域生活支援事業

保健・医療・地域の支え合い活動などと連携し、日常生活や就労について相談支援サービスを提供し、障害福祉サービス利用にあたって利用者に応じた利用計画を作成しました。

##### ① 障害福祉サービス計画支援事業（スクラム・ネット）

日中活動の場の提供（就労継続B型、生活介護）や居宅支援（身体介護、家事援助）など、障害福祉サービスの計画的な利用について関係機関と連携しながら相談・計画支援にあたりました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開設日数 243日（年末年始・祝日を除く月～金曜日）</li> <li>○ 年度末登録者数 70人</li> <li>○ 延べ利用者数 109人（平均9.1人／月）</li> </ul>
障害福祉サービス計画書の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者等の心身状態・環境等を把握し、在宅生活が継続できるサービス利用計画を作成</li> <li>○ 計画作成者には、定期的なアセスメント・モニタリングを実施</li> </ul>
関係機関等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ サービス事業者や関係機関との連携による利用者への支援体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 関係者会議、事業所見学同行の実施</li> <li>◆ 自立支援協議会・サービス相談支援部会への参加</li> </ul> </li> </ul>
専門職の資質・技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修等への参加による情報・知識の習得、ケアマネジメント技術の向上</li> </ul>

##### ● 計画作成・モニタリング件数の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
計画作成件数（件）	17	18	29	30	33
モニタリング件数（件）	1	48	57	91	76

##### 【評価と展望】

- 前年度は実績がなかった障害児相談支援事業について、1件担当した。今後も需要に応じて対応していく。

##### ② 大北圏域障害者相談支援事業（スクラム・ネット）

障がい者や家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のために必要な援助を行いました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開設日数 243日（年末年始・祝日を除く月～金曜日）</li> <li>○ 年度末登録者数 2,568人</li> <li>○ 延べ利用者数 4,770人（平均397.5人／月）</li> <li>○ 発達障がい勉強会 96人（3/20 サンアルブス大町）</li> </ul>
管内町村へ出張相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ひきこもり等相談会を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 池田町3回、松川村3回、白馬村3回、小谷村3回</li> <li>◆ 延べ相談件数：10人</li> </ul> </li> </ul>
ピアカウンセラー・ペアレントメンターによる相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 障がいのある相談員や障がいのある子どもを育てている親が、対等な立場で話を聞き、その経験を生かした相談支援を実施</li> </ul>
一般相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 精神病院、障害者支援施設等から地域へ戻る希望のある方に対して地域の情報提供や各種体験を実施して安心して生活ができるよう支援</li> <li>○ 地域移行・定着支援研修を受講</li> </ul>

当事者団体等支援	○ 自立支援協議会当事者部会の活動の中で、困りごとに対して助言を実施
自立支援協議会の運営	○ 全体会と各専門部会を組織し、共通の目的に向けた情報の共有と関係者によるネットワークを構築 ○ アドバイザーに福岡氏を招き、事務局運営についての検討会を3回実施

● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用者数（人）	6,724	6,423	5,457	5,327	4,770

【評価と展望】

- 職員の異動等もあり、相談件数は減少したが、関係機関とのスムーズな連携が取れ、同行訪問は多くなった。
- 自立支援協議会事務局運営について、アドバイザーを招いて検討した結果、方向性が整理でき、知識向上を図ることができた。
- 一般相談支援事業は今年度実績がなかったが、今後地域移行・地域定着支援を推進する。

③ 発達障がいサポート・マネージャー事業（スクラム・ネット）

発達障がい者を直接支援している人や組織へ、より専門的な支援を実施していただけるように、アイディア提供や専門家への橋渡しを行いました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 243日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末登録者数 69人（単年度登録者数） ○ 延べ利用者数 368人（平均33.4人／月（11か月）） ○ 会議等への出席等 236回（平均21.4回／月（11か月））
個別のケースにかかわる活動	○ 相談・連携・打合せ・支援会議・医療紹介・同行受診・電話相談などを、本人やご家族、支援者に対して実施
個別支援以外の活動	○ 研修会・連絡会議・講師・サポマネ圏域間交流・サポマネワーキング（医療・保健）・自立支援協議会（県・圏域）・自立支援協議会事務局・池田町子育て支援ネットワーク委員・なかまとSSTのSV・長野県発達障がい者支援連携協議会・大北圏域発達障がい診療地域連携病院連絡会などへの参加、協力
ひきこもり等相談会	○ 池田・松川・白馬・小谷と協力し、まいさぼと連携して開催 ◆ 延べ12回（相談件数延べ10件 実質9人）
学校巡回相談	○ 圏域内の8中学校、3高等学校、圏域外3校（圏域在住者）に、年間3回ずつ訪問し、情報交換や進路等についての連携や就業支援ワーカー等との連携を確認（個別支援は別途対応）

● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用者（人）			308	311	368
単年度登録者数（人）			72	73	69
開催延べ数（回）			205	224	236

【評価と展望】

- 事業開始から3年目。どんなことを相談したらいいのかわからないのか、どうやって利用したらいいのかわからないのかが必要である。療育コーディネーターとの違いについても、分かりにくさがあることから、関係者の会合に参加させていただき、PRした。

- 障害者差別解消法の施行とともに、学校現場は「合理的配慮」に切実感があり、連携させていただける方向にある。進路なども、外部と連携して考えていくことが普通になってきている。しかし一般的には「合理的配慮」の浸透には機会があるごとにPRが必要である。
- 自ら発達障がいを疑い、支援を求めてくる成人期以降のケースが増加傾向にある。ひきこもりのケースを含め、青年期・成人期の今後の支援体制づくりが必要になる。
- ひきこもり等に携わっている職員が増えているが、ケースも手法も多様で、また相談は長期化するが本人の変化は乏しく、関係者が連携することが必要である。

#### ④ 療育支援事業（スクラム・ネット）

障がいのある児および障がい傾向のある児に対し、早期発見と療育支援を行うことにより、穏やかな生活が送れるよう、助言・指導・相談支援を行いました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開設日数 243日（年末年始・祝日を除く月～金曜日）</li> <li>○ 年度末登録者数 313人</li> <li>○ 延べ利用者数 2,106人（平均175.5人/月）</li> </ul>
障がい児等療育支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 訪問療育等支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 保護者に対する相談・指導（312回実施）</li> <li>巡回相談、親の会（オルカの輪・よつばの会・こぶしの会 等）</li> <li>ペアレント・トレーニング、ペアレント・メンター相談会</li> <li>基本相談（来所相談・電話相談）、同行支援</li> </ul> </li> <li>○ 在宅外来療育等支援事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 児に対する相談・指導（234回実施）</li> <li>SST指導、集団療育、基本相談（来所相談・電話相談）、同行支援</li> </ul> </li> <li>○ 施設支援一般指導事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 関係機関の職員に対する相談・指導（570件実施）</li> <li>巡回相談及び来所相談</li> </ul> </li> <li>○ 市町村発達障がい者支援体制強化事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 圏域自立支援協議会事務局、普及啓発研修会、市町村発達支援事業への協力（フォローアップ教室、5歳児相談、就学相談 等）</li> </ul> </li> </ul>
児童発達支援巡回相談業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大町市及び白馬村の保育園・幼稚園・小学校・中学校における、巡回訪問による相談及び指導（220回実施）</li> </ul>

#### ● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
訪問療育等支援事業（人）	547	506	456	739	511
在宅外来療育等事業（人）	725	498	1,040	669	458
施設支援一般指導事業（人）	829	972	972	1,284	1,051

#### 【評価と展望】

- 訪問療育等支援事業：養育上の課題や育児不安のあるご家族からの相談ニーズが増加している。行政や医療機関と連携を図り、包括的かつ継続的に支援していく。
- 在宅外来療育等事業：指導実施により、児の行動改善が図られ、地域の支援者に浸透できつつある。今後は、施設支援としてのスーパーバイズに切り替えていく。
- 施設支援一般指導事業：心理アセスメントの結果や助言内容が活用されるよう、事前情報収集や事後フォローも行っていくことが必要である。
- 市町村発達障がい者支援体制強化事業：市町村の機構改革等の支援体制強化につながってきている。各機関の役割の明確化を図ることが今後の課題である。



## ⑤ 障害者地域活動支援センター事業（ハーモニー・ルーム）

講座を通して仲間づくりをし、在宅生活の意欲向上に繋がる講座作りに努めました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開設日数 244日（年末年始・祝日を除く月～金曜日）</li> <li>○ 契約者数 28人</li> <li>○ 延べ利用者数 1,294人（平均107.8人／月、5.3人／日）</li> </ul>
講座型事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者の希望を取り入れ、利用者同士の交流も含め、楽しく活動できる年間23講座を企画、実施</li> <li>①絵画/②ちぎり絵/③アレンジメント・フラワー/④絵手紙/⑤カーレット/⑥大人のぬり絵/⑦機能訓練/⑧童謡唱歌/⑨陶芸/⑩マレットゴルフ/⑪はた織/⑫映画鑑賞/⑬紙粘土/⑭レクレーション/⑮料理/⑯草木染/⑰カラオケ/⑱外出/⑲押し花/⑳革細工/㉑トールペイント/㉒書道/㉓水引</li> </ul>
健康づくりのための機能訓練・外出活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上下肢筋力低下予防等のための機能訓練講座（1回/月）</li> <li>○ マレットゴルフ（冬季をのぞき1回/月）</li> <li>○ カーレット（冬季中1回/月）</li> <li>○ 外出講座（美術館、バラ園、映画鑑賞など）</li> </ul>
地域との結びつきを重視したサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市役所市民ホールでハーモニー展を開催（活動の紹介）</li> <li>○ 大町市文化祭に出展</li> <li>○ 利用者の作品（薄縁）を大町駅に寄贈</li> </ul>

### ● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用者数（人）	1,698	1,633	1,750	1,695	1,294

#### 【評価と展望】

- 利用者の高齢化や体調の変化により、利用回数の減少が目立った。
- 講師の体調不良により講座の入替を行った。（書道、水引→カーレット、大人のぬり絵）
- 参加講座にバラつきがあるため、更に利用者のニーズにそった講座の検討が必要である。

## ⑥ 移動支援サービス

通院や余暇活動等、希望に応じた支援を実施しました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開設日数 365日</li> <li>○ 平均契約者数 4人/月</li> <li>○ 延べ利用時間数 94時間（平均7.8時間/月）</li> </ul>
外出時の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通院やスポーツクラブ参加等への外出介助を実施</li> </ul>

### ● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用時間数（時間）	214	210	121	71	94

#### 【評価と展望】

- 通院介助の利用が多く、所要時間や支援頻度が定まらないのが特徴のサービスである。希望に応じ対応していく。

## ⑦ 日中一時支援事業

障がい児に日中活動の場を提供することで保護者の日常生活（就労等）を支援しました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 365日 ※ 平日の夕方、土曜日の半日、学校長期休業中の利用が主体 ○ 登録者数 4人 ○ 延べ利用時間数 325時間（平均27.1時間／月） ○ 登録サポーター 3人
1対1対応の支援	○ 利用者1人にサポーター1人の体制で支援

### ● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用時間数（時間）	518	515	603	467	325

#### 【評価と展望】

- 第2四半期で支援員1名が辞任した。需要に応える支援体制の維持が困難となり、第3四半期以降、利用者1名は他事業所との併用で支援を継続している。
- 当該事業を実施する事業所は支援員の確保が困難な状況。今後は事業所間が連携してニーズに対応する体制について検討していく。

## ⑧ いこいの家事業

精神障がい者の社会参加の促進に向け、当事者と家族が安心して集い、交流し、仲間づくりや相談ごとができる活動を提供しました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 42日（年末年始・祝日を除く月曜日） ○ 延べ利用者数 152人（平均12.7人／月、3.6人／日）
利用者が安心して活動できる場所と機会の提供	○ 利用者の希望に応じ、室内野外の軽スポーツ、レクリエーションゲーム、季節を楽しむ行事や調理、七夕コンサート、温泉入浴等多彩な活動を提供 ○ 保健センターと連携しながら利用者やその家族の相談支援

### ● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ利用者数（人）	213	233	174	155	152

### ● 主な活動実績

野外レクリエーション	お花見	散歩	温泉入浴	祝賀パレード見学
	流しソーメン	マレットゴルフ		
室内レクリエーション	調理実習	誕生会	七夕コンサート	クリスマス会
	カラオケ	初釜お茶会	卓球	

#### 【評価と展望】

- 新規利用に向けての見学は数件あったが、利用実施は1件に留まった。
- 利用者は固定化しているが、参加を楽しみにしている。
- 健康面を考え運動不足を補うための屋内軽運動の実施を増やしたい。
- 男性を含む新規のボランティア育成が課題。

## (5) 障害福祉サービス事業

個々の環境に応じて自立した在宅生活に求められる能力が引き出せるよう、保健、医療、地域の支え合い活動等と連携しながら、各種障がい福祉サービスを提供しました。

### ● 障害福祉サービス収入の推移

(単位：千円)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
障害福祉サービス収入	84,989	84,744	81,517	81,178	87,551

### ① 障がい者居宅介護事業

住み慣れた自宅で自立した生活が送れるようにサービスを提供しました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 365日 ○ 平均契約者数 33人／月 ○ 延べ訪問時間数 6,470時間（平均539.2時間／月）
関係機関との連携	○ 利用者や家族、計画相談員、市福祉課等と連携し、支援方向を検討
自立に向けた支援	○ 日々の関わりの中で残存能力の見極め、関わりを深めながら支援

### ● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
延べ訪問時間数（時間）	6,800	6,581	6,751	6,964	6,470

#### 【評価と展望】

- サービスの提供が残存能力の低下を招かないよう、支援内容を判断する必要がある。
- 生活の質の向上について計画相談員と連携し、検討する機会を増やしていく。

### ② 多機能型障害福祉サービス事業

生活介護・就労支援を提供し、心身の維持と発達の可能性を図れる実践に努めました。

項 目	実施内容・結果
事業実績	○ 開設日数 243日（年末年始・祝日を除く月～金曜日） ○ 年度末登録者数 53人（生活介護20人、就労支援33人） ○ 延べ利用者数 8,896人（平均741.3人／月、36.6人／日） ◆ ひまわりの家 6,116人（平均509.7人／月、25.2人／日） ◆ すずらん 1,607人（平均133.9人／月、6.6人／日） ◆ たんぽぽ 1,173人（平均97.8人／月、4.8人／日）
生産活動の提供と工賃の向上	○ 市内10業者から下請作業を受注 ○ 自主製品を製造・販売
日中活動の支援・社会参加	○ 生活介護・就労支援合同で多彩な活動を実施（詳細別記） ○ 小グループで利用者や家族の要望に沿った余暇支援活動を提供
利用者の健康増進	○ 利用者の定期健康診断を実施（受診者35人） ○ 支援会議にいて、看護師から健康の維持・増進について助言
地域交流の促進	○ 自主製品の販売会を開催 ◆ 定期販売会 毎月第3木曜日（大北地域6事業所合同） ◆ イベント販売 18会場 ◆ 焼き芋販売 11月～3月 毎週水曜日 ○ 喫茶すまいる営業 毎週木・金曜日10:00～15:00（新メニュー開拓） ○ セタコンサートを開催（いこいの家事業と協同で開催）

● 延べ利用者数の推移

(単位：人)

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
就労継続支援B型(人)	4,747	3,946	4,496	4,703	5,101
生活介護(人)	4,206	4,960	3,610	3,546	3,795
合 計(人)	8,953	8,906	8,106	8,249	8,896

● 利用区分別年度末契約者数

(単位：人)

	生活介護(障害程度区分)						就労継続 支援B型	合 計
	1	2	3	4	5	6		
ひまわりの家	0	3	2	5	1	0	21	32
たんぽぽ	0	0	0	1	4	4	—	9
すずらん	—	—	—	—	—	—	12	12
合 計	0	3	2	6	5	4	33	53

● 主な余暇支援・社会参加活動

実施月	活動内容
4月	花見めぐり、ラ・カスタ見学
5月	高瀬川こいのぼり、アヤメ祭り
6月	公園散策、農園草むしり、信濃美術館見学、夢農場 散策
7月	プール活動、ブルーベリー狩り
8月	「てるてる坊主アート」出展、日帰り旅行(山梨県「ハイジの村」)
9月	プール活動、足湯体験
10月	「豊科・池田プチ旅行」外出外食活動
11月	プール活動、音楽レク、「合同食事会」、模擬映画館体験
1月	「お初釜体験」、「ブラックパネルシアター」人形劇
3月	「大王わさび農場」散策、プール活動

【評価と展望】

- 新規利用(生活1人、就労2人)、転居による解約1人(就労)で、利用者増となった。
- 利用者への工賃支給は、下請作業が例年どおり受注でき、作業が減少する冬期を中心に自主製品の販路拡大(販売会等への出店)に努めた結果、前年度実績を上回ることができた。しかし、次年度は企業の工場移転による受注終了が予定されており、新規作業の開拓が必要である。現在、既存業者からの新規作業や施設外就労の受注を検討している。
- 日中活動では、利用者や家族から「新しい体験」など、好評の声をいただいた。引き続き多彩な活動を企画・実施し、社会参加を促していく。



日帰り旅行(8/26 山梨県「ハイジの村」)

## 5. 経済的支援活動の推進

不安定な収入や引きこもり等で経済的に困っている人が生活意欲を取り戻せるよう、一時的な資金の貸付と生活相談や就労相談を行いました。

また、火災や自然災害等で被災した世帯への当面の生活確保に必要な支援体制を整え、経済的支援活動の推進に努めました。

### (1) 生活困窮者等自立支援事業

経済的に困っている人からの相談に応じ、継続的な生活支援や就労支援等を行い、関係機関と連携しながら経済的自立・社会的自立の促進を図りました。

(長野県社会福祉協議会が大町市総合福祉センター内で実施)

項 目	実施内容・結果
自立相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開設日数 243日(年末年始・祝日を除く月～金曜日)</li> <li>○ 新規相談者数 95人</li> <li>○ 自立支援プラン作成人数 46人</li> <li>○ 自立支援調整会議を開催(毎月1回及び随時) <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 参集対象 県・市福祉事務所、ハローワーク、その他関係機関</li> <li>◆ 内 容 自立支援プランの適否の協議、プラン終結評価等</li> </ul> </li> <li>○ 市町村福祉課及びまいさぼ出張所(各町村社協)との定期連絡会を開催(毎月1回)</li> <li>○ 各市町村民生児童委員にパンフレットを配布(2月)</li> <li>○ 中信地域若者自立支援ネットワーク会議に出席(7/26、8/31、10/27、1/31、2/1)</li> </ul>
大北地域連絡会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関係機関との連携による支援ネットワークを構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 生活就労センター大北地域連絡会に出席(7/22)</li> </ul> </li> </ul>

#### ● 実績数値の推移

年 度	H24	H25	H26※	H27	H28
新規相談者数(人)	—	—	105	106	95
自立支援プラン(人)	—	—	19	53	46

※ H26 はモデル事業

#### ● 市町村別・年代別相談者数

(単位:人)

年代	大町市	池田町	松川村	白馬村	小谷村	不明	合計
～20代	1	0	0	1	0	0	2
20代	2	0	2	2	1	0	7
30代	7	0	2	4	0	0	13
40代	12	4	4	2	1	1	24
50代	8	3	2	1	4	0	18
60～64歳	0	3	4	0	0	0	7
65歳以上	11	0	4	2	0	1	18
不明	3	0	1	1	1	0	6
合計	44	10	19	13	7	2	95

#### 【評価と展望】

- 税務課収納係などを通じての相談が増加しており、隠れた傾向として銀行カードによる多重債務者の存在がある。納税相談と家計相談、就労支援をセットで支援していく
- 市町村福祉課、まいさぼ出張所との定期連絡会開催が連携強化につながってきている。



## (2) 資金貸付事業（小口資金・生活福祉資金）

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等に対し、経済的自立と生活意欲の助長を図るため、各種資金の貸付と生活相談を実施しました。

項 目	実施内容・結果
関係機関と連携した自立支援の推進	○ 貸付相談の内容に応じ、まいさぼ大町、行政やハローワーク等関係機関と連携
定期的な訪問による償還指導	○ 小口資金の借受人宅訪問や電話等による償還指導を実施 ○ 県社協と連携し、生活福祉資金の長期滞納者を訪問し、償還指導を実施
償還依頼通知発送	○ 小口資金貸付金の償還依頼通知を年2回発送
滞納整理、返済不能貸付金の欠損処分等	○ 小口資金延滞利子免除対象者の生活状況等調査を実施 ○ 生活福祉資金長期滞納者の生活状況等を調査し、県社協に提出 ◆ 償還免除 3件

### ● 生活福祉資金貸付状況（平成 28 年度中）

資金種別		貸付申請		貸付決定		年度末貸付金残高		完済 件数
		件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	
小口資金（大町市社協）		9	412,900	9	412,900	22	1,566,196	7
生活福祉資金 （県社協）	総合支援資金					6	2,111,339	2
	緊急小口資金					8	658,307	2
	教育支援資金	1	473,000	1	473,000	22	6,774,827	4
	福祉資金					10	10,060,225	0
	合 計	1	473,000	1	473,000	46	19,604,698	8

※年度末貸付金残高には利子・延滞利子を含む。

※完済件数には欠損処分及び延滞利子減免件数を含む

※離職者支援資金は総合支援資金を含む

### ● 貸付決定件数の推移

（単位：件）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
小口資金	4	4	8	13	9
生活福祉資金	3	4	4	5	1

### ● 年度末貸付金残高（元金）の推移

（単位：円）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
小口資金	1,422,000	1,338,500	1,251,500	1,200,204	1,023,400
生活福祉資金	15,055,526	15,705,578	15,951,128	15,020,880	14,297,782

#### 【評価と展望】

- ライフラインの復旧等緊急かつ少額の相談が多く、小口資金の貸付が増えた。また、生活福祉資金では、就学資金の相談を受けて県社協に申請し、決定となった。
- 滞納者への償還指導は、生活福祉資金では、小口資金に比べると、訪問しても不在が多い。滞納が長期化する前の償還指導を実施していく。
- 今年度で生活福祉資金相談体制整備事業補助金が終了する。貸付相談や償還指導の業務は今後も増加すると思われるため、当面は現行の体制を維持するが、財源不足解消に向けた対応を検討していく。
- 県社協やまいさぼ等関係機関との連携を強化し、相談支援体制を整えていく。

### (3) 災害見舞金等支給事業

今年度、被災した市民または遺族に対する救護物資や各種見舞金の支給はありませんでした。

項 目	実施結果・内容	
援護物資（寝具）の支給（市民）	○ 被災者からの要請による寝具一式支給	実績なし
災害見舞金の支給（社協会員のみ）	○ 被災状況に応じた災害見舞金の支給	実績なし
県共同募金災害援護金の支給	○ 被災状況に応じた災害援護金の支給	実績なし
県社協交通・災害遺児見舞金の支給	○ 交通・災害事故の遺児見舞金の支給	実績なし

#### ● 災害見舞金等支給実績の推移（大町市社協予算で支給したもののみ計上）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
寝具支給数（組）	18	0	5	4	0
見舞金支給数（世帯）	5	0	72	2	0
見舞金支給額（円）	43,000	0	230,000	13,000	0

#### 【評価と展望】

- 県社協の交通・災害遺児見舞金は市子育て支援課及び市教育委員会に依頼し、事業内容の周知を図った。
- 今年度の支給実績はなかったが、災害の発生に備えて、引き続き行政と連携し、迅速かつ適切に対応できる態勢を整える。



災害時連携研修会（11/12 常盤公民館）

## Ⅳ 受け継がれるまちづくり

地域福祉活動を継続的に展開するため、住民の福祉意識の高揚と担い手の育成に努めました。

### 1. 地域における福祉意識の啓発

広報紙等による福祉情報の発信や社会福祉功労者の表彰、市民からの福祉啓発標語の募集を通して、地域福祉の意識啓発に努めました。

#### (1) 福祉情報発信事業

広報紙やホームページを活用し、タイムリーな情報発信に努めました。

項 目	実施内容・結果
広報紙「社協おおまち」の発行	○ 地域の住民活動に焦点をあてた記事を中心に掲載 ◆ 年6回（偶数月1日）発行 （全戸配布9600部 詳細別記）
ホームページの充実と活用	○ 各広報紙のほか、各種講座の募集やお知らせなど、タイムリーな記事を掲載

#### ● 広報紙「社協おおまち」の発行内容

号数	発行日	主な内容
181号	4月1日	宮本悠々元気塾 10周年（表紙）/H28 事業計画・予算/平成27年度大町市ボランティア交流研究集会報告/社協出前講座の紹介
182号	6月1日	高根町で始まった体操教室（表紙）/あなたの町の体操教室/いこいの家コンサート/北アルプス成年後見支援センター開所
183号	8月1日	いこいの家七夕コンサート（表紙）/H27 事業・決算報告/地域の雪かき支援について/お出掛けボランティア講座の開催
184号	10月1日	平西原でのカラオケ会（表紙）/住民参加型在宅福祉サービスを考えよう/井戸端会議開催のお知らせ/社協の訪問入浴サービス
185号	12月1日	宮田町にこにこサロンでお買い物（表紙）/地域福祉計画・活動計画住民意識調査結果報告/社協会費お礼
186号	2月1日	安心くらしのもちもちサービス（表紙）/井戸端会議開催報告/地域の雪かき支援取り組み紹介

#### 【評価と展望】

- 広報紙については、地域の活動やタイムリーな記事の掲載に努めた。
- 次年度から総合事業がスタートすることもあり、地域の状況が変化していくことが予想される。今後も地域の課題や活動を中心に情報発信していく。
- よりタイムリーな情報提供手段として、ホームページのほか、SNSなどの情報発信手段について検討していく。



## (2) 地域福祉意識啓発事業

社会福祉功労者の表彰や福祉啓発標語の募集を通して、地域住民の福祉意識の啓発に努めた。

項 目	実施結果・内容
社会福祉功労者表彰	○ 大田市社会福祉大会において、社会福祉功労者の表彰と多額金品寄附者への感謝状贈呈を実施（1月29日）
福祉啓発標語の募集	○ 市内各校及びボランティアニュースで啓発標語の募集を行い、選考委員会で入選作品を選考 ◆ 募集時期 10～12月 ◆ 募集部門 小学校低学年、小学校高学年、中学校、高等学校、一般 ◆ 応募総数 611点 ◆ 選考結果 入選作品31点（最優秀4、優秀8、佳作19） ○ 大田市社会福祉大会で最優秀賞の表彰を実施 ○ 入選作品をイベントや市総合福祉センター内で展示、ボランティアニュースや各種会議資料に掲載

### ● 表彰者数（個人 25 人、団体 5 団体）

区 分	表彰基準	表彰者数
表 彰	本会役員	2 人
	保護司	1 人
	社会福祉事業団体役員	2 人
	民生児童委員	19 人
	優良活動団体	3 団体
感謝状	多額金品寄附（個人）	1 人
	多額金品寄附（団体）	2 団体

### ● 福祉啓発標語応募点数の推移

（単位：点）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28
小学校低学年	26	153	125	95	116
小学校高学年	91	241	169	248	145
中 学 校	48	15	0	434	323
高 等 学 校	88	98	0	20	23
一 般	6	6	6	6	4
合 計	259	513	300	803	611

#### 【評価と展望】

- 標語の入選作品を総合福祉センター内で展示したほか、ボランティアニュースや会議資料に掲載することにより、広く地域住民に周知を図った。
- 今後も幅広い年代が福祉に関心を持っていただける取り組みとして継続していく。

ご近所さん 助け合って みな元気

（大町仁科台中学校1年 宮本紗希さん）

平成28年度 福祉啓発標語 優秀作品

## 2. 地域の担い手育成

地域住民や子どもたちへの福祉教育の推進と、地域の助け合い活動につなげるための担い手育成に努めました。

### (1) 福祉教育推進事業

地域や小中高等学校での出前福祉体験講座と相談支援活動を行った。

項 目	実施結果・内容
福祉教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社協事業を掲載した冊子を市内小中高校に配布し、事業説明と情報交換を実施</li> <li>○ 高齢者疑似体験、車いす体験、手話学習、点字学習、アイマスク体験等の出前講座を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 5小学校（延べ14回）、2中学校（延べ4回）、1高校（延べ15回）</li> </ul> </li> <li>○ 物づくり指導、レクレーション指導、ボランティアセンター業務紹介等の出前講座を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 延べ7回（小地域福祉ネットワーク等）</li> </ul> </li> </ul>

#### 【評価と展望】

- 地域や各小中高等学校に出向き、福祉体験講座を実施することで、きめ細やかな要望への対応や、地域の方との対話や連携の場につながった。
- 今後も地域や学校への出前体験講座を通して、福祉教育の推進と啓発に努めていく。

### (2) 地域福祉活動担い手育成事業

項 目	実施結果・内容
ボランティア講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボランティアリーダー研修会を開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>開催日 2月24日（金）</li> <li>場 所 大田市総合福祉センター</li> <li>参加者 43人</li> <li>内 容 「牛乳パックでゲーム」</li> <li>講師 レクレーションインストラクター 種山正子氏</li> </ul> </li> </ul>
有償ボランティアサービスの実施（安心くらしのもちもちサービス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有償ボランティアの仕組みづくりにあたり、市内生活支援実施事業所に声をかけ、大田市の在宅有償生活支援サービスを考える会を開催（2回） <ul style="list-style-type: none"> <li>開催日 4月25日 ※第1回 3月15日</li> <li>参加者 シルバー人材センター、JA大北、市地域包括支援センター</li> </ul> </li> <li>○ 先進地視察を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>実施日 5月2日</li> <li>視察先 岡谷市社協「有償在宅福祉サービス事業家事援助サービス」 諏訪市社協「安心くらしのオレンジサービス」</li> </ul> </li> <li>○ モデル地区を指定（10月1日より開始） <ul style="list-style-type: none"> <li>指定地区 大新田町（大新田町ネットワークこだま）</li> <li>指定経緯 独自に有償ボランティアによる生活支援の仕組みづくりを検討しており、その検討会に社協も参加していた。コーディネートを誰がやるか等の課題もあり、モデル地区について提案。市内初の試みでもあり、試験的に有償ボランティアを実施することとした</li> <li>検討会 6/28、7/22、8/19の全3回開催</li> </ul> </li> </ul>



	<p>○ 事業の周知も兼ねた大新田町協力会員養成講座を開催  開講日 9月17日  参加者 24名  内 容 ◆ 認知症について ～予防と気づき～  講師：市地域包括支援センター 諸角保健師  ◆ お宅に訪問するときのポイント  講師：訪問介護事業所 北澤ヘルパー  ◆ もちもちサービス内容説明  講師：地域福祉係 丸山</p> <p>○ 11～4月までの計6回、毎月第一金曜日を定例会議の日とし、大新田町住民ともちもちサービスについて検討する定例もちもち会議を開催</p> <p>○ 市内ケアマネージャーを対象とした研修会において事業の広報を実施  研修会 実践力強化研修会（主催：市地域包括支援センター）  実施日 10月25日</p> <p>○ 次年度以降の全市の実施を見据えた協力会員養成講座を開催  開催日 3月10日  会 場 大町市総合福祉センター  参加者 約60名  内 容 ◆ 高齢者のメンタルヘルス ～軽度認知障害について～  講師：メンタルケアセンターあづみ副所長 高橋 妙子 氏</p>
--	---

#### 【評価と展望】

- 有償ボランティア（もちもちサービス）については、モデル地区での実施状況を踏まえ、更に内容を見直し、次年度には全市対象とした仕組みとしていく。事業が浸透して多くのニーズが寄せられるまでにはしばらく時間がかかることが想定されるが、大町市にもこの仕組みがあるということが重要である。
- 今後は行政事業の「生活支援員派遣事業」はもとより、市内民間企業を含めた事業所で実施されている生活支援サービスとの連携を図っていくことが重要である。
- 県社協が事務局を担っている住民参加型在宅福祉サービス事業所のネットワーク組織「信州くらしの支え合いネットワーク」に加入し、県内の事業所とのネットワークを構築する。



有償ボランティアサービスで障子の張り替え作業をする協力会員（1/10 大新田町）



### 3. 地域福祉活動団体の育成

市内で活動中の福祉団体に対する相談支援や助成金の交付を通して、各団体の育成を図りました。

#### (1) 小地域福祉ネットワーク活動推進事業

項 目	実施内容・結果
新規ネットワーク助成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新規設立ネットワークへの助成：申請なし</li> <li>○ 既存ネットワークへの助成：会費財源のネットワーク支援事業助成金を地区社協に交付（各ネットワークには各地区社協から交付）</li> </ul>

##### 【評価と展望】

- 既存の地域団体も活動が困難となっている中、新規ネットワークの立上げは難しい現状がある。
- 地域のニーズを探る中で、ネットワーク活動だけではなく、ニーズを解決する取り組みを支援し、ネットワーク活動につなげるコーディネートが重要と感じる。

#### (2) 地域福祉活動団体育成事業

項 目	実施内容・結果
福祉団体等の活動への助成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地区社協・福祉団体等が行う活動に対し、社協会費・共同募金配分金を財源に助成金を交付（4月申請受け付け、5月交付決定、6月交付終了）</li> <li>◆ 6地区社協 2,260,100円</li> <li>◆ 福祉団体10団体 285,000円</li> </ul>
新たな公募助成の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共同募金委員会事務局で新たな公募配分事業を検討する「公募を考えるワーキンググループ」を組織し、検討</li> <li>◆ 12月1日/2月14日 計2回開催</li> </ul>
ボランティア活動への助成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボランティア団体が行う活動に対し、5万円を限度に助成金を交付</li> <li>◆ 16団体 511,200円</li> </ul>
ボランティア活動保険掛金助成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボランティア活動保険掛金の一部（140円/人）を助成</li> <li>◆ Aプラン 197,400円 Bプラン 60,480円</li> </ul>

#### ●地区社協助成金交付実績 （社協会費財源）

（単位：円）

地区名	地域交流事業	啓発活動事業	災害時支え合い活動事業	ネットワーク支援事業	合計
大町	192,000	60,000	0	683,900	935,900
平	100,000	100,000	0	167,500	367,500
常盤	167,000	0	0	180,000	347,000
社	167,000	0	0	169,700	336,700
八坂	60,000	10,000	0	50,000	120,000
美麻	123,000	0	0	30,000	153,000
合計	809,000	170,000	0	1,281,100	2,260,100

●福祉団体助成金交付実績（共同募金財源）

（単位：円）

共同募金活動区分	団体名	助成額
老人福祉活動	大町市老人クラブ連合会	50,000
障害児・者福祉活動	大町市身体障害者福祉協会	35,000
	大町市手をつなぐ育成会	30,000
児童・青少年福祉活動	大町市子ども会育成連絡協議会	50,000
福祉育成・援助・組織化活動	大町市民生児童委員協議会	55,000
	大町市保護司会	25,000
	大町市遺族会	30,000
	大町市更生保護女性会	10,000
合計		285,000

● ボランティア活動団体助成金交付実績（社協会費財源）

（単位：円）

団体名	事業内容	助成額
アースデイおおまち	地域貢献活動（子ども支援）	50,000
安曇養護学校大町地区PTA	地域貢献活動（施設花植え等）	30,000
おさんぽの会「まつぼっくり」	地域貢献活動（子育て支援）	50,000
大町市婦人会	地域貢献活動（古紙回収等）	4,800
大町市朗読グループかっこう	福祉教育啓発活動（朗読図書作成等）	10,400
大町点訳ほたるの会	福祉教育啓発活動（広報紙の点訳）	20,000
シニア大学常盤地区同窓会睦会	地域貢献活動（駅前草刈活動等）	20,000
要約筆記サークルおきあがりこぼし	学習研修活動（学習会）	10,000
傾聴ボラきくきく	学習研修活動（学習会）	30,000
賛助会大町グループ	地域貢献活動（福祉施設交流等）	12,000
アルプスリンゴーズ	地域貢献活動（福祉施設交流等）	50,000
ファミリーサポートバンビ	学習研修活動（子ども向け調理実習等）	45,000
ゆずり葉の会	地域貢献活動（高齢者交流会）	50,000
大町山岳博物館友の会 ボランティアサークル	学習研修活動（ガイド研修会等）	50,000
オルカの輪	学習研修活動（障がい支援）	29,000
おはなしの会「やしろ」	学習研修活動（学習会）	50,000
合 計（16団体）		511,200

【評価と展望】

- 共同募金の「公募を考えるワーキンググループ」での検討により、次年度からの新規事業として、公募配分事業がスタートする。
- 共同募金財源の助成事業については、共同募金委員会が新設した公募配分事業で継続実施となる。助成実績のある団体に加え、新たな団体にも活用しやすい配分事業となり、地域福祉を担う地域団体の育成がより活性化することを期待する。
- 地域貢献活動や学習研修活動にボランティア活動団体助成金を交付することにより、ボランティア活動の定着化と活動支援を図った。
- 今後も活用しやすい助成金制度について検討し、活動団体の育成を図っていく。

ボランティア 地いきのために がんばろう

（大町西小学校4年 二木鉄平さん）

平成28年度 福祉啓発標語 優秀作品